



XB300

M 25

2

自第一條

至第五百十條

民法人專篇

修正原本

司法部  
第九八號  
寄贈圖書文庫

X13300  
M25-2  
T.C. 247



民法草案人事編目次

法例

至自  
第第  
三三  
十一  
十五  
條條

第一編 人事

至自  
第第  
五五  
百一  
十十  
條條

第一章 私權ノ享有及ヒ行用

至自  
第第  
二二  
八八  
七七  
條條

第二章 國民分限

至自  
第第  
二二  
八八  
七七  
條條

第一節 國民分限ノ獲得

至自  
第第  
二二  
八八  
七七  
條條

第二節 國民分限ノ喪失及ヒ回復

至自  
第第  
二二  
八八  
七七  
條條

第三節 國民分限ノ變更ノ法式及

至自  
第第  
二二  
八八  
七七  
條條

ヒ效果

第三章 親屬

至自  
第第  
三三  
二二  
十一  
十七  
條條

第一節 血屬及ヒ姻屬

至自  
第第  
三三  
二二  
十一  
十七  
條條

第二節 養料ノ義務

至自  
第第  
三三  
二二  
十一  
十七  
條條

第四章 婚姻

至自  
第第  
三三  
二二  
十一  
十七  
條條

前置條例

第一節 婚姻ヲ爲スニ必要ナル條

至自第百三十八條

件

第二節 婚姻前ノ法式

至自第百五十一條

第三節 婚姻ノ故障

至自第百五十二條

第四節 婚姻ノ公式

至自第百五十九條

第五節 日本人外國ニ於テ并ニ外

至自第百六十九條

國人帝國ニ於テ爲ス婚姻

至自第百七十七條

第六節 婚姻成立ノ證據

至自第百七十七條

第七節 婚姻ノ不成立及ヒ無効ノ

至自第百八十四條

請求

第八節 婚姻ノ效果

至自第百八十五條

第一款 夫婦ノ權利及ヒ義務

至自第百九十九條

第二款 婦ノ無能力

至自第百四十二條

第九節 婚姻ノ解離

第百十三條

第十節 罰則

至自第百十四條

第五章 離婚

至自第百十九條

第一節 雙方協議ノ離婚

至自第百二十九條

第二節 特定原由ノ爲メ一方ヨリ

至自第百三十一條

爲ス離婚

第一款 離婚並ニ不受理ノ原由

至自第百三十三條

第二款 假處置

至自第百三十四條

第三款 離婚ノ訴

至自第百三十八條

第三章 離婚ノ效果

至自第百四十二條

第六章 親子ノ分限

至自第百四十八條

第一節 正親子ノ分限

至自第百四十八條

第一款 正親子ノ分限ノ證據  
自第百四十九條

第二款 否認訴權  
自第百六十八條

第三款 親子タル身分ノ請求及  
口爭拒ノ訴權  
自第百六十九條

第二節 庶親子ノ分限  
自第百七十三條

第一款 庶親子ノ分限ノ證據  
自第百七十四條

第二款 庶出子ノ認知  
自第百七十五條

第三款 親子ノ分限搜索ノ訴權  
自第百八十二條

第四款 庶出子ノ准正  
自第百八十三條

第三節 親子ノ分限ヨリ生スル効  
自第百八十五條

果  
自第百八十六條

第七章 縁組  
自第百八十九條

第一節 縁組ノ爲メ必要ナル條件  
自第百九十五條

自第百五十九條

自第百六十八條

自第百七十三條

自第百七十四條

自第百七十五條

自第百八十二條

自第百八十三條

自第百八十五條

自第百八十六條

自第百八十九條

自第百九十五條

第二節 縁組ノ法式  
自第百三十七條

第三節 縁組ノ證據  
自第百三十八條

第四節 縁組ノ不成立及ヒ無効  
自第百三十九條

第五節 縁組ノ効果  
自第百四十條

第六節 罰則  
自第百四十一條

第八章 親權  
自第百四十二條

第一節 父母其子ノ身上ニ有スル  
自第百四十三條

權  
自第百四十四條

第二節 子ノ財産ノ管理  
自第百四十五條

第三節 親權ノ喪失  
自第百四十六條

第四節 庶出子ノ父母ニ特別ナル  
自第百四十七條

規則  
自第百四十八條

第九章 後見  
自第百四十九條

總則		自第	二百六十六條
第一節	後見人	自第	二百七十七條
第二節	副後見人	自第	二百七十八條
第三節	親族會	自第	二百八十三條
第四節	後見ノ認免	自第	三百零八條
第五節	後見人及ヒ親族會員ノ欠格斥除及ヒ罷黜	自第	三百九條
第六節	後見人ノ管理	自第	三百十四條
第七節	副後見人ノ任務	自第	三百三十七條
第八節	後見ノ了終	自第	三百四十四條
第九節	後見ノ計算	自第	三百四十五條
第十章	未成年者ノ自治	自第	三百五十三條
第十一章	禁治產	自第	三百六十八條

第一節	民事上禁治產	自第	三百六十八條
第二節	准禁治產	自第	三百八十二條
第三節	刑事上禁治產	自第	三百八十三條
附錄	瘋癲者ノ假管理	自第	三百八十七條
第十二章	戶主及ヒ家族	自第	三百九十二條
第十三章	住所	自第	四百十二條
第十四章	失踪	自第	四百三十五條
第一節	失踪ノ推測	自第	四百三十八條
第二節	失踪ノ宣言	自第	四百三十九條
第三節	失踪宣言ノ効果	自第	四百二十三條
第四節	失踪ノ推測及ヒ宣言ノ兩期ニ通用スル規則	自第	四百三十五條
第十五章	身分證書	自第	四百三十六條

地ノハ  
規程  
ノ

第一節	總則	自第四百三十六條
第二節	出生證書	自第四百七十二條
第三節	婚姻及離婚證書	自第四百七十三條
第四節	縁組證書	自第四百七十五條
第五節	死去證書	自第四百七十九條
第六節	種々ノ證書	自第四百八十九條
第七節	特別ノ身分證書	自第四百九十二條
第八節	身分證書ノ訂正	自第四百九十五條
第九節	罰則	自第四百九十九條

至第四百三十九條	自第四百五十六條	自第四百六十二條	自第四百七十三條	自第四百七十五條	自第四百七十九條	自第四百八十九條	自第四百九十二條	自第四百九十五條	自第四百九十九條
----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------

法例

第一條 法律ハ天皇裁可ノ後直チニ之ヲ公布ス

公布ハ官報ニ法律ヲ登載シタル日ニ完成シタルモノト看做ス

公布アリタル法律ハ官報ニ登載シタル日ヨリ滿二十日ノ後全國ニ於テ各個人之ヲ了知シタルモノト看做ス但シ法律ノ明文ヲ以テ他ノ日限ヲ定メタルハ此例ニ在ラス

公布ノ日限過キタル後ハ何人ト雖モ法律ヲ遵守セサル可カラズ但シ當事者其合意若クハ處置ヲ以テ法律ヲ免カル、ヲ得ヘキ場合若クハ法律上ノ錯誤ヲ宥恕スヘキ場合ハ此例ニ在ラス

公布ノ法式ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第二條 法律ハ將來ノミヲ規定シ溯及ノ効力ヲ有セス



第三條 社會ノ公益ヲ主タル目的ト爲ス法律ハ各個人ノ私益ヲ害スルニ拘ラス溯及ノ効力ヲ有ス

第四條 社會ノ公益ニ關スル法律ト雖モ各個人其身分又ハ資産ニ付既ニ獲得シタル私權ヲ害スルコトヲ得ス但シ其權利ノ行用又ハ保存ノミヲ規定スルハ此例ニ在ラス

第五條 身分ハ其獲得ニ必要ナル條件ノ完備シタルキ又資産ヲ組成スル權利ハ其由テ生スル行爲ノ完結シタルキハ其權利ノ未必ニ係ルキト雖モ之ヲ既得權ト爲ス

人ノ能力及ヒ法律ノ直ニ付與スル權能ハ既得權ト爲サス但シ其能力ニ依リ爲シタル行爲及ヒ其權能ノ行用ニ依リ得タル利益ハ此限ニ在ラス

權利行爲ノ法式及ヒ證據ハ其行爲ヲ爲シタル當時ノ法律ニ從ヒ其適法ト否トヲ決定スヘキノ點ニ於テハ既得權ト爲ス

第六條 私益ヲ規定スルコトヲ目的ト爲ス法律ハ各個人ノ私權ヲ害セサルキト雖モ溯及ノ効力ヲ有セス但シ法律ノ明文ヲ以テ溯及ノ効力ヲ付シタル場合ハ此例ニ在ラス

第七條 人ノ身分及ヒ能力ハ其本國法ヲ以テ之ヲ支配ス

親族ノ關係及ヒ其關係ヨリ生スル權利義務ニ付テモ亦同シ

第八條 動産ハ其所有者ノ本國法ニ服従ス 但シ私益ノミニ關スル法律ハ此例ニ在ラス

不動産ハ其所在地ノ法律ニ服従ス 然レモ相續ハ財産ノ性質ト其所在地トヲ問ハス死者ノ本國法ヲ以テ之ヲ規定ス

第九條 外國ニ於テ爲シタル合意ニ係ルキハ結約者ノ明瞭又ハ暗黙ナル意思ニ從ヒ之ニ適用スヘキ法律ヲ定ム可シ 若シ結約者ノ意思分明ナラサル場合ニ於テハ其同國人ナル

ルロ

ハ本國法ヲ適用シ又其同國人ニ非サルキハ合意ヲ爲シタル國ノ法律ヲ適用ス可シ  
結約者帝國ニ於テ其合意ノ公正證書ヲ作ルキハ公證人ハ其結約者ニ本條ノ規則ヲ示ス可シ  
第十條 外國人帝國ニ於テ合意ヲ爲スキハ其本國法ニ從ヒ能力者タルヤ又ハ無能力者タルヤヲ申述ス可シ若シ此申述ヲ爲サ、ルキハ其外國人ト結約スル者善意ナルニ於テハ能力ニ關スル帝國法律ノ適用ヲ求ムルヲ得  
外國人公正證書ヲ作ルキハ公證人ハ其能力ニ關スル本國法ヲ申述セシム可シ若シ之ニ違フキハ其責ニ任ス  
第十一條 生存者間ニ於ケルト死去ニ原由スルトヲ問ハス一方ノ意思ノミニ由ル處置ハ之ヲ爲ス者ノ本國法ニ服從ス但シ反對ノ意思アルキハ此例ニ在ラス

第十二條 不當ノ利得ハ當事者同國人ナルキハ其本國法ヲ以テ之ヲ支配シ又其同國人ニ非サルキハ其原由ノ生シタル國ノ法律ヲ以テ之ヲ支配ス  
法律上ノ管理ヨリ生スル義務ハ管理人ヲ付セラレタル者ノ本國法ヲ以テ之ヲ支配ス  
不正ノ損害ハ有意ナルト無意ナルトヲ問ハス其事實ノ生シタル國ノ法律ヲ以テ之ヲ支配ス  
第十三條 本國法ヲ適用スヘキ諸般ノ場合ニ於テ何レノ國民分限ヲモ有セサル者ハ住所又其住所知レサルキハ其居所ノ法律ニ服從ス又日本人ト外國人トノ分限ヲ有スル者ハ帝國ノ法律ニ服從ス  
第十四條 公正證書及ヒ私證書ノ法式ハ之ヲ作ル國ノ法律ニ從フ

日五口改

此法式ハ當事者ノ國民分限ノ如何ヲ問ハス之ヲ遵守セサル  
可カラズ但シ一個人又ハ同國人ナル數人ノ作ル私證書ニ係  
ルキハ其本國法ニ從フモ自由ナリトス

第十五條 有式ノ契約若クハ行爲ト雖モ之ヲ爲ス國ノ法式ニ  
從フキハ法式上有効トス但シ故意ヲ以テ帝國ノ法律ヲ脱シ

タルキハ此例ニ在ラズ外國ノ法式ニ依リ

第十六條 外國ニ於テ作りタル證書ハ不動產物上權ヲ移轉ス  
ル行爲ニ係ルキハ其不動產所在地ノ地方裁判所長又其他ノ

行爲ニ係ルキハ當事者ノ住所又ハ居所ノ地方裁判所長其證  
書ニ認印シタル上ニ非サレハ帝國ニ於テ効力ヲ生スルコトヲ

得ス  
所長ハ其證書ノ法式ハ之ヲ作りタル國ノ法律ニ適フヤ否ヤ  
ヲ検査ス可シ

所長ノ決定ニ對スル抗告ハ控訴院長ニ之ヲ爲ス可シ

第十七條 人ノ身分及ヒ能力ニ關スル法式ハ其人ノ本國法ヲ  
以テ之ヲ支配ス

第十八條 第三者ノ利益ノ爲メニ設定スル公示ノ法式ハ不動  
產ニ係ルキハ其所在地又其他ノ場合ニ於テハ其理由ノ生シ

タル國ノ法律ヲ以テ之ヲ支配ス

第十九條 訴訟手續ハ其訴訟ヲ爲ス國ノ法律ニ從フ  
證據ハ其身分物上權又ハ對人權ニ係ルキ間ハス其行爲

ノ生シタル國ノ法律ニ從フ  
裁判及ヒ契約ノ執行方法ハ其執行ヲ爲ス國ノ法律ニ從フ

第二十條 前數條ノ條例ニ拘ラス社會ノ權利ニ關スルキハ行  
爲ノ地、當事者ノ國民分限及ヒ財産ノ性質如何ナルヲ問ハス  
帝國ノ法律ヲ適用ス可シ

此規則ハ就中左ノ法律ニ適用ス

一 公法及ヒ刑法ニ係ル法律

二 保安ニ係ル法律

三 善良ノ風俗ニ係ル法律

四 時効ニ關スル法律但シ獲得時効ハ財産所在ノ國ノ法律

ニ從ヒ免責時効ハ義務ヲ生シタル國ノ法律ニ從フ

第二十一條 判事ハ法律ノ不明不備又ハ欠缺ヲ口實トシテ裁

判ヲ拒絶スルコトヲ得ス若レ此規則ニ違フハ裁判拒絶ノ刑

ニ處ス

第二十二條 法律ノ不備若クハ欠缺アルハ判事ハ其裁判ス

ヘキ事件ト同様ノ場合又ハ類似ノ事項ニ關スル法律ノ條例

ヲ適用ス可シ

第二十三條 刑罰法及ヒ制限法ハ其特ニ明示シタル場合ノ外

日六〇議

ニ及ホス可カラス

第二十四條 判事ハ法律イテ慣習ニ讓リタル場合ニ非

ハ慣習ニ據リ裁判スルコトヲ得ス

第二十五條 判事ハ法律ヲ非理不正ナリト思料スルニ拘ラス

又法律カ各個人ノ私權ヲ害スルハト雖モ之ヲ適用セサル可

カラス

第二十六條 判事ハ其請求ヲ受ケタル事件ニ付一般成規ト爲

スノ方法ニ依リ宣告スルコトヲ得ス又將來ニ係ル裁判ヲ爲ス

コトヲ得ス但シ將來ニ係ル義務執行ノ爲メ豫メ損害賠償ヲ宣

告スルコトヲ得

第二十七條 法律ハ其明瞭又ハ暗黙ニ廢セラレサル間ハ之ヲ

適用ス可シ其適用ノ斷絶ハ法律ノ効力ヲ廢滅セス

第二十八條 法律明カナルハ其精神ヲ推究スルコトヲ口實ト

シテ其正文ヲ没スルヲ得ス

第二十九條 法律ハ解釋上其規定シタル目的ニ限ル可ク其關係ナキ他ノ目的ニ及ホス可カラス

第三十條 法律ニ例外ノ存セサルキハ之ヲ補足スルヲ得ス但シ法律ニ存セサル例外ト雖モ他ノ規則ノ適用タルキハ此限ニ在ラス

第三十一條 法律ノ區別セサル處ニ區別ヲ爲ス可カラス但シ法律ノ理由ヨリ生スル必要ノ區別ハ此限ニ在ラス

第三十二條 公衆ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ關スル法律ニ抵觸シ又ハ其適用ヲ免レントスル合意若クハ處置ハ不成立トス

第三十三條 身分又ハ能力ヲ規定スル法律ヲ免カル、合意又ハ處置ハ無効トス

第三十四條 權利行爲ハ其成立ニ必要ナル條件ノ一ヲ缺キタ

ルキハ不成立トス

第三十五條 權利行爲ノ無効ハ法律ノ正條ニ據ルヲ要シ之ヲ補足スルヲ得ス

第一編 人事

第一章 私權ノ享有及ヒ行用

第一條 何人ト雖モ活テ出生シタルキハ私權ヲ享有ス(佛第八條、第七百二十五條、伊第八條、第七百二十四條)

第二條 胎内ニ在ル子ト雖モ其利益ヲ保護スルニ付テハ既ニ出生シタル者ト看做ス(同上蘭第三條)

第三條 何人ト雖モ法律ニ定ムル無能力ノ場合ニ在ラサル限リハ躬ヲ其私權ヲ行用スルヲ得

第四條 私權ノ行用ニ關スル成年即チ通法ノ年齢ハ滿二十年ト定ム但シ法律ニ特別ノ規則アルキハ此限ニ在ラス(佛第四百八十八條)

第五條 外國人ハ法律ニ明瞭ノ禁止アルモノヲ除クノ外私權ヲ享有ス(伊第三條、佛第十一條)

11503

第六條 無形人ハ公私ヲ問ハス法律ノ之ヲ認許スルニ非サレハ成立スルヲ得ス又法律ノ之ニ付與スルモノヲ除クノ外私權ヲ享有スルヲ得ス其設立ノ條件及ヒ其權利ハ此法律及ヒ特別法ニ之ヲ規定ス(伊第二條)

第七條 法律ハ外國國家ヲ除クノ外外國無形人ノ成立ヲ認許セス但シ條約又ハ特許アルキハ此限ニ在ラス其成立ヲ認許シタル外國無形人ハ帝國ニ成立スル同種ノ者ト同一ノ權利ヲ享有ス

第二章 國民分限

第一節 國民分限ノ獲得

第八條 日本人ノ子ハ外國ニ生ルト雖モ日本人トス(佛第十條、伊第四條)

父母其分限ヲ異ニスルキハ父ノ分限ヲ以テ其子ノ分限ヲ定

父ノ知レサルキハ子ハ其母ノ分限ヲ承續ス(伊第七條第一項) 父母共ニ知レサルキハ帝國ニ生レタル子ハ日本人トス(伊第七條末項)

第九條 左ノ場合中其一ニ在ル子ハ日本人ノ分限ヲ撰擇スルヲ得

- 一 父外國人タリト雖モ母日本人タルキ(白第四十條第一項)
- 二 外國人ノ子タリト雖モ帝國ニ生レタルキ(佛第九條、伊第八條第一項、第三項)
- 三 日本人ノ分限ヲ失ヒタル者ノ子ナルキ(佛第十條第二項)

第十條 日本人ノ分限ヲ撰擇セント欲スル子ハ本國法律ニ從ヒ其成年ニ至リシ時ヨリ一年內ニ其意思ヲ申述シ且ツ其申述ヨリ一年內ニ其住所ヲ帝國ニ定ム可シ(佛第九條)

成年ノ後ニ至リ外國人ノ認知シタル庶出子ハ其認知ヨリ一  
年内ニ其意思ノ申述ヲ爲スヲ得

第十一條 日本人ト婚姻スル外國ノ女ハ當然日本人ノ分限ヲ  
獲得シ婚姻解離ノ後ト雖モ其分限ヲ保有ス(佛第十二條伊第

九條)

第十二條 日本人ノ養子ト爲ル外國人ハ當然日本人ノ分限ヲ  
獲得ス

第十三條 外國人ハ歸化ニ依リ日本人ノ分限ヲ獲得スルヲ  
得其條件及ヒ法式ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス(伊第十條第一  
項)

歸化人ノ妻子ハ外國人ノ分限ヲ保有スト雖モ其成年ナルキ  
ハ歸化ノ日ヨリ又其未成年ナルキハ成年ヨリ一年內ニ第十  
條ニ從ヒ日本人ノ分限ヲ撰擇スルヲ得(佛千八百五十一年

三  
同  
法  
ト  
シ  
テ  
○

ノ法律第二條伊第十條末項)

第十四條 歸國ノ意ナク帝國ニ其家ヲ定メタル外國人ハ十年  
ノ後當然日本人ノ分限ヲ獲得ス其妻子ハ前條第二項ニ從ヒ  
日本人ノ分限ヲ撰擇スルヲ得(白第四十四條)

第二節 國民分限ノ喪失及ヒ回復

第十五條 日本人ハ左ノ場合ニ於テ其分限ヲ失フ但シ刑法第  
百二十九條ノ適用ヲ妨ケス

一 歸國ノ意ナク外國ニ其家ヲ定メタルキ  
十年以上外國ニ住所ヲ有スル日本人ハ歸國ノ意ナシト推  
測ス但シ反對ノ舉證ヲ妨ケス(白第四十五條)

二 隨意ニ外國人ノ分限ヲ獲得シタルキ  
三 帝國政府ノ允許ナクシテ外國政府ノ官職ヲ受ケ又ハ外

國ノ軍隊ニ入りタルキ



日本人ノ分限ヲ失ヒタル者ノ妻子ハ其分限ヲ保有ス(佛第十

七條、伊第十一條、第十二條)

第十六條 前條ノ場合ニ於テ日本人ノ分限ヲ失ヒタル者ハ帝

國政府ノ允許ヲ得タル上歸國シテ其意思ヲ申述シ且ツ一年

内ニ其住所ヲ帝國ニ定ムルキハ其分限ヲ回復ス(佛第十八條、

伊第十三條)

第十七條 外國人ト婚姻スル日本ノ女ハ當然日本人ノ分限ヲ

失フ

然レニ婚姻解離ノ後帝國ニ現住シ又ハ復歸シ且ツ帝國ニ其

住所ヲ定ムルコトヲ申述スルキハ其分限ヲ回復ス(佛第十九條)

第三節 國民分限ノ變更ノ法式及ヒ效果

第十八條 國民分限ノ撰擇又ハ回復ニ關スル申述ハ帝國ニ在

リテハ現住地ノ身分取扱役所又外國ニ在リテハ帝國ノ公使



田中...  
上...

館又ハ領事館ニ之ヲ爲スコシ

其申述ハ公正キコトヲ特別ナル委任狀ヲ與ヘ代理人ヲ以テ之

ヲ爲スコトヲ得(佛千八百五十一年ノ法律第一條)

第十九條 國民分限ノ變更ハ如何ナル場合ニ於テモ將來ニ非

サレハ其效果ヲ生セス但シ兵役ニ服スルハ此限ニ在ラス(佛

第二十條、第九條、伊第十五條)

第二十條 國民分限ハ出生ノ時ヲ以テ之ヲ定ム然レニ懷胎ヨ

リ出生マテノ間父又ハ母ノ分限變更シタルキハ子ハ第二條

ノ規則ニ從ヒ日本人ノ分限ヲ保有ス(伊第五條第一項、第七條

第二項、白第四十九條)

第三章 親屬

第一節 血屬及ヒ姻屬

第二十一條 血屬トハ共同ノ始祖ヨリ出テタル者ノ間ニ聯結

親屬の範囲  
ハ可成り廣  
クハ可成り廣  
クハ可成り廣  
クハ可成り廣

セル血統ノ關係ヲ云フ

此關係ハ婚姻ヨリ起ルト否トニ從ヒ正出ノ血屬又ハ庶出ノ

血屬ト爲ス

法律ハ七親等ノ外ニ血屬ノ關係ヲ認許セス(伊第四十八條)

第二十二條 血屬ノ遠近ハ世數ヲ以テ之ヲ定メ一世ヲ以テ一

親等ト爲ス

親等ノ連續スルヲ親系ト爲ス彼ヨリ此ニ直降スル者ノ親系

ヲ直系ト云ヒ其直降セスシテ共同ノ始祖ニ出ツル者ノ親系

ヲ傍系ト云フ

直系ヲ分テ尊屬及ヒ卑屬ト爲ス尊屬親トハ自己ノ出ツル所

ノ血族ヲ云ヒ卑屬親トハ自己ヨリ出ツル所ノ血族ヲ云フ(佛

第七百三十五條、第七百三十六條、伊第四十九條、第五十條)

第二十三條 父ノ血統ノ聯結セル者ヲ父系ノ血族ト云ヒ母ノ

ハ可成り廣  
クハ可成り廣  
クハ可成り廣  
クハ可成り廣

血統ノ聯結セル者ヲ母系ノ血族ト云フ

第二十四條 直系ニ於テハ兩人間ノ世數ヲ計算シテ親等ヲ定

ム

傍系ニ於テハ血族ノ一人ヨリ共同ノ始祖ニ溯リ又其始祖ヨ

リ他ノ一人ニ降り其間ノ世數ヲ計算シテ親等ヲ定ム(佛第七

百三十七條、第七百三十八條、伊第五十一條)

第二十五條 縁組ハ養子ト養親及ヒ其血族トノ間ニ民法上血

族ニ同シキ關係ヲ生ス

夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ子トノ關係ハ親子ニ准ス

第二十六條 姻屬トハ婚姻ニ因リ夫婦ノ一方ト其配偶者ノ血

族トノ間ニ生スル關係ヲ云フ

夫婦ノ一方ノ血族ハ其親系及ヒ親等ニ於テ配偶者ノ姻族ト

ス

第九の改訂

姻属ノ關係ハ夫婦ノ一方死去ノ場合ヲ除クノ外婚姻ノ解離ニ因リ止息ス(伊第五十二條)

第二節 養料ノ義務

第二十七條 直系ノ血族ハ正出ト庶出トヲ分タス躬ヲ生活スルヲ能ハサルキハ其原由如何ヲ問ハス互相ニ養料ヲ給スル義務ヲ負擔ス(佛第二百五條、第二百七條、伊第三百三十九條)

第二十八條 兄弟姉妹ノ間及ヒ伯叔父母ト甥姪トノ間ハ其正出ト庶出トヲ分タス廢疾其他本人ノ責ニ歸セサル事故ニ因リ躬ヲ生活スルヲ能ハサル場合ニ限り互相ニ養料ヲ給スル義務ヲ負擔ス(伊第四百十一條、白第二百零二十一條)

第二十九條 直系ノ姻族ハ前條同一ノ條件ニ從ヒ互相ニ養料ヲ給スル義務ヲ負擔ス(佛第二百零六條、伊第四百十條)

第三十條 養料ノ義務ヲ負擔スヘキ者ノ順序左ノ如シ

別附

第一 卑属親及ニ尊属親

第二 尊属親

第三 兄弟姉妹

第四 伯叔父母甥姪

第五 卑属ノ姻族

第六 尊属ノ姻族

卑属親又ハ尊属親ノ間ハ其親等ノ最近キ者養料ノ義務ヲ負擔ス姻族ノ間モ亦同シ  
養料ヲ受ク可キ者ノ順序モ亦前兩項ノ例ニ從フ(伊第四百十二條)

第三十一條 養料ハ之ヲ受ク可キ者ノ需用ト之ヲ給ス可キ者ノ資産トニ應シテ其額ヲ定ム(佛第二百零八條、伊第四百十三條)  
第三十二條 養料ヲ給ス可キ者ハ或ハ定期ニ金穀ヲ支給シ或

ハ其家ニ引取り養フヲ得但シ裁判所ハ場合ニ依リ其方法ヲ定ムルヲアルヘシ(佛第二百十條伊第四百四十五條)

第三十三條 養料ヲ給ス可キ同順序ノ者數人アルハ各其資産ニ應シテ之ヲ負擔ス此場合ニ於テ他人ノ負擔ス可キ養料

ヲ辨償シタル者ハ其負擔者ナレバ之ヲ償還セシムルヲ得

第三十四條 判決ニ因リ養料ヲ受ク可キ者又ハ之ヲ給ス可キ者ノ資産ニ變更アリタルハ其増減ヲ地方裁判所ニ請求スルヲ得

養料ヲ給ス可キ同順序ノ者數多アリテ其各自ノ資産ニ變更アリタルハ亦同シ(伊第四百四十四條)

第三十五條 養料ハ他人ニ讓渡スヲ得又養料ニ原由スル債務ノ爲メニ非サレハ之ヲ差押フルヲ得ス

第三十六條 養料ヲ給シタル者ハ之ヲ取還スヲ得ス

胡

然レモ第三者代理又ハ事務管理ニテ養料ヲ給セシハ其義務ヲ負擔ス可キ者ニ對シ又其負擔者無資力ト爲リタルハ養料ヲ受ケタル本人ニ對シ之ヲ取還スヲ得

第三十七條 養料ノ義務ハ判決ニ基クモト雖モ左ノ場合ニ於テ止息ス

一 養料ヲ給ス可キ者死去シ又ハ之ヲ給スルヲ能ハサルハ

二 養料ヲ受ク可キ者死去シ又ハ躬ヲ生活スルヲ得ルハ

此外姻族ノ間養料ノ義務ハ左ノ場合ニ於テ止息ス

一 養料ヲ受ク可キ者再婚シタルハ

二 配偶者及ヒ其共同子ノ死去シタルハ(伊第四百四十六條佛

養

第二百六條

第四章 婚姻

前置條例

第三十八條 婚姻ニ二種アリ普通婚姻及ヒ特例婚姻トス  
婦其夫ノ氏ヲ稱シ其身分ニ從フキハ之ヲ普通婚姻ト云ヒ反  
對ノ場合ニ於テハ之ヲ特例婚姻ト云フ

特例婚姻ハ雙方ノ明瞭ナル意思ニ出ツルヲ要ス其意思ニ  
疑アルキハ普通婚姻ト看做ス

本章ノ條例ハ特別ニ規定スルモノヲ除クノ外二種ノ婚姻ニ  
適用ス

第三十九條 婚姻ヲ爲スヘキ約束ハ其婚姻ヲ爲スノ義務ヲ生

セス然レモ約束者ノ一方正當ノ理由ナクシテ其履行ヲ拒ム  
キハ他ノ一方其約束ヲ信シテ爲シタル實費賠償ノ責ニ任ス

(伊第五十三條、第五十四條)

第一節 婚姻ヲ爲スニ必要ナル條件

第四十條 男子ハ滿十~~七~~年女子ハ滿十~~四~~年ノ齡ニ至ラサレハ

婚姻ヲ爲スヲ得ス(佛第四百十四條)

第四十一條 配偶者アル者ハ重子ヲ婚姻ヲ爲スヲ得ス(伊第  
五十六條佛第四十七條)

第四十二條 夫ノ失踪ニ原由スル離婚ノ場合ヲ除クノ外女子  
ハ前婚解離ノ後四個月内ニハ再婚ヲ爲スヲ得ス

此制禁ハ其分婉シタル日ヨリ止息ス(伊第五十七條佛第二百  
二十八條、第二百九十六條)

第四十三條 姦通ニ原由スル離婚ノ場合ニ於テハ離婚ノ裁判  
宣告ヲ受ケタル曲者ハ其相姦者ト婚姻ヲ爲スヲ得ス(佛第  
二百九十八條)

第四十四條 直系ニ於テハ尊屬親ト卑屬親トノ間正出ト庶出  
トヲ分タス婚姻ヲ禁ス直系ノ姻族ノ間亦同シ(佛第六十一  
條、第三百四十八條伊第五十八條、第六十條)

日十三日

第四十五條 傍系ニ於テハ夫婦ト爲ルヘキ雙方ノ一方共同  
始祖ト一親等ナルキハ其正出ト庶出トヲ分タス婚姻ヲ禁ス  
(佛第百六十二條伊第五十九條)

第四十六條 養子ト養親其尊屬親及ヒ配偶者トノ間又養親ト  
養子ノ配偶者及ヒ卑屬親トノ間婚姻ヲ禁ス(佛第三百四十八

條伊第六十條) 成年ニ至リタル男女ハ父母ノ承諾ヲ得ルニ非サ  
レハ婚姻ヲ爲スヲ得ス

第四十七條 父母其意ヲ異ニスルキハ父ノ許諾ヲ以テ足レリトス  
父母ノ中一方死去シ又ハ其意ヲ表スルヲ能ハサルキハ他ノ

一方ノ許諾ヲ以テ足レリトス(佛第四百四十八條第四百十九

條) 第四十八條 父母共ニ死去シ又ハ其意ヲ表スルヲ能ハサルキ

ハ父系ノ祖父母ノ許諾ヲ請フ可シ

祖父母其意ヲ異ニスルキハ祖父ノ許諾ヲ以テ足レリトス

祖父母ノ中一人死去シ又ハ其意ヲ表スルヲ能ハサルキハ他

ノ一人ノ許諾ヲ以テ足レリトス(佛第五百十條)

第四十九條 父母及ヒ父系ノ祖父母悉ク死去シ又ハ其意ヲ表

スルヲ能ハサルキハ親族會ノ許諾ヲ受ク可シ(佛第百六十

條)

第五十條 父母又ハ父ノミニ對シ親子ノ分限確定セル庶出子

ハ其父ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ婚姻ヲ爲スヲ得ス

母ノミニ對シ親子ノ分限確定セル庶出子ハ其母ノ許諾ヲ受

ク可シ

右二項ノ庶出子ニ付テモ亦前二條ヲ適用ス

親子ノ分限確定セサル庶出子ハ親族會ノ許諾ヲ受ク可シ(伊

日十三日

第六十六條佛第一百五十九條

第五十一條 養子ハ婚姻ヲ爲スニ付第四十七條及ヒ第四十八條ニ從ヒ養家ノ父母祖父母ノ許諾ヲ請フ可シ實家ノ父母祖父母ノ許諾ヲ要セス(伊第六十三條末項)  
養子ノ婚姻ニ付テモ亦第四十九條ヲ適用ス

第二節 婚姻前ノ法式

第五十二條 婚姻ノ公式ヲ行フノ前身分取扱人ハ婚姻ノ公告ヲ爲ス可キモノトス

公告ハ雙方其父其後見人又ハ此等ノ者ノ特別代理人ノ請求ニ依リ之ヲ爲ス可シ(佛第六十四條伊第七十三條)

第五十三條 公告ハ身分取扱役所ノ門前ニ公告書ヲ滿五日間揭示スルモノトス

公告書ニハ雙方ノ氏名、年齡、族稱、職業、其出生地、住所及ヒ居所

其父母ノ氏名、族稱、職業及ヒ住所又ハ居所、婚姻ノ公式ヲ行フヘキ地并ニ公告ノ年月日ヲ記載ス可シ(佛第六十三條)

此外特例婚姻及ヒ婚姻ニ由ル縁組ニ關スルキハ公告書ニ其旨ヲ記載ス可シ

第五十四條 公告ハ雙方ノ居所ノ地並ニ住所ノ地ニ於テ之ヲ爲ス可シ但シ重大ノ事由アルキハ地方裁判所檢事ハ公告ノ日限及ヒ婚姻ノ公式ヲ行フ地外ノ公告ヲ免除スルヲ得(佛第六十九條、伊第七十八條)

身分取扱人ハ雙方ノ定メタル當日ニ公告ヲ爲ス可シ(佛第六十六條及ヒ第六十七條)

第五十五條 婚姻ノ公式ハ其公告ノ日限ヲ過キタル後ニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス但シ公告ヲ免除シタルキハ格別ナリトス(佛第六十四條、伊第七十六條)

第五十六條 公告ノ日限ノ後六個月ヲ過キタルキハ更ニ公告ヲ爲スニ非サレハ婚姻ノ公式ヲ行フヲ得ス(佛第六十五條伊第七十七條)

第五十七條 婚姻ノ公式ヲ行フノ前雙方左ノ書類ヲ身分取扱人ニ差出ス可シ

一 出生證書ノ謄本

二 前婚ノ解離ヲ證スル死去證書又ハ裁判宣告書ノ謄本

三 尊屬親若クハ親族會ノ許諾書並ニ尊屬親ノ死去シ又ハ其意ヲ表スル能ハサルヲ證スル書類

四 婚姻公告ノ證明書又ハ公告ニ關スル免除書

五 故障ヲキル證明書又ハ故障排斥ノ判決書ノ謄本(佛第七十六條、伊第七十九條)

第五十八條 雙方又ハ一方其出生證書ヲ呈示スルヲ能ハサル

キハ其出生ノ地、住所若クハ居所ノ區裁判所判事ノ授付シタル保證書ヲ以テ出生證書ニ代用スルヲ得

保證書ハ男女ヲ問ハス又血族ト否トヲ問ハス三名ノ證人左ノ諸件ニ付區裁判所判事ニ爲シタル申述ヲ記載ス

一 本人ノ氏名、族稱、職業、住所及ヒ居所並ニ其父母分明ナル

キハ其氏名、族稱、職業、住所及ヒ居所

二 本人出生ノ地並ニ年、月、日

三 本人出生證書ヲ呈示スルヲ能ハサル原因及ヒ證人其事實ヲ聞知シタル緣由(佛第七十條、第七十一條、第七十二條、伊第八十條)

第五十九條 尊屬親ハ自身出席シテ許諾ヲ與フル場合ノ外本人并ニ其配偶スヘキ他ノ一方ノ氏名、族稱、職業、住所又ハ居所ヲ明記シタル公正證書ヲ以テ許諾ヲ與フ可シ且ツ其許諾書



ニハ許諾ヲ與フル者ヲ氏名、族稱、職業、住所及ヒ其親等ヲ記載  
ス可シ(佛第七十三條)

親族會ノ許諾ハ右同一ノ記載アル決議書ヲ以テ之ヲ證ス可  
シ(伊第八十一條)

第三節 婚姻ノ故障

第六十條 父母其他尊屬親ハ其許諾ヲ與フヘキ順序ニ從ヒ婚

姻ヲ爲スヘキ卑屬親ノ年齢ニ拘ラス其婚姻ニ故障ヲ爲ス

ヲ得(佛第一百十三條)

第六十一條 後見人ハ未成年者カ親族會ノ許諾ヲ得スシテ婚

姻セントスルキハ其婚姻ニ故障ヲ爲スヲ得

又親族會ハ代理人ニ委任シテ其婚姻ニ故障ヲ爲サシムル

ヲ得(佛第七十四條、第七十五條、伊第八十四條)

第六十二條 重婚セントスル者ノ配偶者ハ其婚姻ニ故障ヲ爲

スヲ得

配偶者其意ヲ表スルヲ能ハサルキハ尊屬親ハ故障ヲ爲ス

ヲ得(佛第七十四條)

第六十三條 第四十二條ニ違背シテ寡婦再婚セントスルキハ

亡夫ノ尊屬親及ヒ相續人ハ其婚姻ニ故障ヲ爲スヲ得

離婚又ハ婚姻無効ノ場合ニ於テ婦四ヶ月内ニ再婚セントス

ルキハ前夫ハ其婚姻ニ故障ヲ爲スヲ得若シ前夫死去シ又

ハ其意ヲ表スルヲ能ハサルキハ尊屬親及ヒ相續人ハ故障ヲ

爲スヲ得(伊第八十六條)

第六十四條 檢事婚姻ノ公式ヲ行フノ妨礙ト爲ルヘキ法律上

ノ原由ヲ聞知シタル片ハ其婚姻ニ故障ヲ爲ス可シ(佛第八十

七條)

婚姻ノ故障書ニハ故障者ノ身分ト尊屬親ヲ除ク

第六十五條 婚姻ノ故障書ニハ故障者ノ身分ト尊屬親ヲ除ク

再行

主

ノ外故障ヲ爲ス法律上ノ原由トナ明記シ並ニ婚姻ノ公式ヲ行フヘキ地ニ臨時住所ヲ撰定シタルコトヲ記載ス可シ之ニ違フキハ其故障ハ無効トス(佛第七十六條)

第六十六條 故障書ハ執達吏ヲ以テ雙方井ニ婚姻ノ公式ヲ行フヘキ身分取扱人ニ送達ス可シ身分取扱人ハ其正本ニ認印シ且ツ即時ニ公告簿ノ欄外ニ簡畧ノ記載ヲ爲ス可シ(佛第十八

十九條、第六十六條、第六十七條)

第六十七條 故障ヲ爲スノ權利ヲ有スル者適法ニ故障ヲ爲シタルキハ身分取扱人ハ故障ノ隨意取消又ハ排斥ノ裁判確定マテハ婚姻ノ公式ヲ停止ス可シ(佛第六十八條、伊第九十條)

第六十八條 故障ノ隨意取消ハ故障者自身婚姻ノ公式ニ出席シ若クハ公證人ノ證書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得(白第六十九

條)

故障排斥ノ認求ハ始審井ニ控訴ニ於テ其認求ヨリ十日内ニ審理ヲ始ム可シ(佛第七十七條、第七十八條)

第六十九條 故障排斥ノ裁判宣告アリタルキハ故障者ハ尊屬親及ヒ檢事ヲ除クノ外損害賠償ノ責ニ任ス(佛第七十九條

伊第九十一條) 故障排斥ノ裁判宣告ヲ受ケタル者ハ再ヒ故障ヲ爲スコトヲ得ス

#### 第四節 婚姻ノ公式

第七十條 婚姻ノ公式ハ雙方ノ中一方ノ住所又ハ居所ノ身分取扱役所ニ於テ身分取扱人ノ面前ニテ公ケニ之ヲ行フ可シ

(佛第六十五條、第七十四條)

第七十一條 公告ノ日限過キタル後雙方ノ定メタル當日ニ身分取扱人ハ證人二名ノ前ニ於テ雙方本人ニ對シ先ツ出生證

十  
出

書ヲ朗讀シ次キニ夫婦財産契約ヲ爲シタルヤ否ヤヲ質問シ若シ之ヲ爲シタルニ於テハ其契約ノ日付及ヒ之ヲ作りタル公證人ノ氏名、居所ヲ申述セシメ次キニ本章第九十九條、第一百條及ヒ第一百一條ヲ讀聞カセ其後雙方ニ對シ各別ニ夫婦ト爲ルヤヲ問ヒ其承諾ヲ聽取ル可シ(佛第七十五條、伊第九十四條)此公式ヲ行ヒタル後即時ニ身分證書ノ章ニ定ムル規則ニ從ヒ婚姻證書ヲ作ル可シ

第七十二條 特例婚姻ニ於テハ其公式ヲ行フ時ニ雙方其旨ヲ身分取扱人ニ申述ス可シ其申述ハ婚姻證書ニ之ヲ記載スルヲ要ス

第七十三條 婚姻ノ承諾ハ口頭ニテ之ヲ與フ可シ但シ己ムヲ得サルハ筆記又ハ形容ヲ以テ之ヲ爲スヲ妨ケス婚姻ノ承諾ハ單純ナルヲ要シ期限及ヒ條件ハ無効トス(伊

### 第九十五條

第七十四條 正當ノ原由アリテ雙方若クハ一方身分取扱役所ニ出席スルヲ能ハサルハ身分取扱人ハ其管内ニ限り書記ト共ニ其家ニ出張シテ證人四名ノ前ニ於テ第七十一條ニ從ヒ婚姻ノ公式ヲ行フヲ得(伊第九十七條)

第七十五條 雙方ノ住所又ハ居所ニ非サル地ニ於テ婚姻ノ公式ヲ行フノ必要アルハ管轄身分取扱人ハ其地ノ身分取扱人ニ其囑託ヲ爲スヲ得(伊第九十六條)

第七十六條 身分取扱人ハ婚姻ノ公式ヲ行フノ妨礙ト爲ルヘキ法律上ノ原由アルニ非サレハ其公式ヲ行フヲ拒ムヲ得ス

身分取扱人婚姻ノ公式ヲ行フヲ拒ムハ其理由ヲ明記シタル拒絕書ヲ授付ス可シ

其拒絕ヲ受ケタル者之ヲ不當ナリト思料スルキハ地方裁判所ニ抗告シテ其取消ヲ求ムルヲ得裁判所ハ要急事件トシテ之ヲ裁判ス可シ(伊第九十八條)

第五節 日本人外國ニ於テ并ニ外國人帝國ニ於テ爲ス婚姻

第七十七條 外國ニ於テ婚姻ヲ爲サントスル日本人ハ帝國ニテ有セシ最後ノ住所又ハ居所ニ於テ婚姻ノ公告ヲ爲ス可シ(伊第一百條第二項、佛第一百七十條)

第七十八條 外國ニ於テ日本人ノミノ間又ハ日本人ト外國人トノ間婚姻ヲ爲スハ其國ニ慣用スル規則ニ從ヒ其公式ヲ行フヲ得但シ本章第一節ニ定メタル條件ニ違背セサルヲ要ス(同上)

第七十九條 日本人ノミノ間婚姻ヲ爲スハ其國ニ在ル帝國

ノ公使館又ハ領事館ニ於テ帝國ノ法律ニ從ヒ婚姻ノ公式ヲ行フヲ得(佛第四十八條、白第一百七十九條)

第八十條 外國人帝國ニ於テ婚姻ヲ爲サントスルキハ其能力ハ本國ノ法律ニ從フ但シ第四十一條乃至第四十六條ノ條件ニ違背セサルヲ要ス(伊第一百三條、白第八十一條)

外國人ハ其本國ノ相當官署ノ認定書ヲ以テ婚姻ヲ爲スニ妨礙ナキヲ證スルニ非サレハ身分取扱人其公式ヲ行フヲ得ス(佛第一百八十二條、伊第一百三條)

第六節 婚姻成立ノ證據

第八十一條 何人ト雖モ婚姻成立ノ證據ヲ舉クルニ非サレハ婚姻ヨリ生スル民法上ノ効果ヲ求ムルヲ得ス

婚姻成立ノ證據ハ婚姻證書ヲ以テ之ヲ爲ス可シ但シ第四百五十六條ニ規定スルモノハ此限ニ在ラス(佛第一百九十四條、伊

第一百十七條

第八十二條 夫婦ノ間ニ於ケルト夫婦ト第三者トノ間ニ於ケルトトテ間ハス婚姻ノ効果ヲ求ムル爲メニ身分ノ占有ノミヲ以テ婚姻ノ成立ヲ證スルヲ得ス

然レモ身分ノ占有アリテ婚姻證書ニ符合スルキハ其證書ニ違式アリト雖モ占有ヲ以テ其證書ノ無効ヲ補フ(佛第九十五條、第九十六條、白第九十九條)

第八十三條

父母共ニ死去シ又ハ其意ヲ表スルヲ能ハサルニ因リ其子父母ノ婚姻證書ヲ呈示スルヲ得スト雖モ出生證書ニ反セサル正出子ノ身分ヲ占有スルキハ父母常ニ公然夫婦ノ如ク生活シタルヲ以テ其婚姻ヲ證スルヲ得(佛第九十七條)

第八十四條

婚姻證書ヲ増減毀棄匿奪シ若クハ片紙ニ記載シ

タル場合ニ於テ刑事又ハ民事ノ訴訟ニ依リ婚姻ノ成立ヲ認メタル判決ハ之ヲ身分證書ノ簿冊ニ記載シテ婚姻證書ニ代用スルヲ得(佛第九十八條、伊第二百二十二條、白第二百零一條)

第七節

婚姻ノ不成立及ヒ無効ノ請求

第八十五條 人違ニ由リ若クハ心神喪失ノ時爲シタル婚姻ハ不成立トス

又身分取扱人ノ立會ナクシテ爲シタル婚姻ハ不成立トス  
婚姻ノ不成立ハ何人ニ限ラス何時ニテモ訴權又ハ抗辯方法ニ依リ之ヲ申立ツルヲ得(白第九十六條)

第八十六條 第四十條、第四十一條、第四十三條、第四十四條、第四十五條及ヒ第四十六條ニ違ヒ婚姻ヲ爲シタルキハ雙方尊屬親、親族會若クハ現實ナル利益ヲ有スル者ヨリ何時ニテモ其無効ヲ請求スルヲ得(白第八十九條)

同上ノ場合ニ於テ檢事ハ夫婦ノ存生中ニ限り職權ヲ以テ婚姻ノ無効ヲ請求スルヲ得(佛第百八十四條、伊第百四條、佛第百九十條)

第八十七條 雙方若クハ一方ノ適齡ナラサル婚姻ノ無効ハ適齡ナル一方及ヒ不適齡ノ事由ヲ知り許諾シタル尊屬親若クハ親族會ヨリ之ヲ請求スルヲ得ス  
又不適齡ニ付婚姻ノ無効ヲ請求スルノ權利ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

一 適齡ナラサリシ者適齡ニ至リ明瞭ニ婚姻ヲ確認シ若クハ三個月ヲ過キタル時

二 婦獨ニ適齡ナラスシテ無効ノ請求アリト雖モ其懐胎シタル時

三 夫適齡ナラスシテ婦ノ懐胎シタル時但シ婦ノ姦通ヲ證

スル時ハ此限ニ在ラス(佛第百八十五條、第百八十六條)

第八十八條 重婚ニ原由スル無効ノ請求アリタル場合ニ於テ雙方前婚ノ無効若クハ離婚ヲ主張スル時ハ豫メ其實否ヲ裁判ス可シ

前婚ノ配偶者失踪シタル時ハ其失踪中ハ無効訴權ヲ行フヲ得ス(佛第百八十八條、第百八十九條、伊第百十三條)

第八十九條 管轄ニ非サル身分取扱人ノ前ニ於テ行ヒタル婚姻ハ第八十六條ニ指定シタル者ヨリ其無効ヲ請求スルヲ得

無効訴權ハ婚姻ヲ行ヒタル後一年ヲ過キタル時ハ之ヲ受理ス可カラス(伊第百四條第二項第三項、佛第百九十一條)

第九十條 第四十七條乃至第五十一條ニ定ムル許諾ナクシテ婚姻ヲ爲シタル時ハ婚姻ノ當時許諾ヲ與フ可キ者又ハ之ヲ

受ク可キ者ヨリ其無効ヲ請求スルヲ得  
又許諾アリタルキト雖モ其許諾ノ暴行若クハ身上ノ錯誤ニ  
原由シタルキ亦同シ(佛第百八十二條伊第百八條)

第九十一條 前條ノ場合ニ於テ父若クハ祖父婚姻ヲ確認セス  
レテ死去シ又ハ其意ヲ表スルヲ能ハサルキハ母若クハ祖母  
無効訴權ヲ行フヲ得

婚姻ノ當時許諾ヲ與フ可キ者婚姻ヲ確認セスシテ死去シ又  
ハ其意ヲ表スルヲ能ハサルキハ法律ニ定ムル順序ニ從ヒ其  
許諾ヲ與フ可キ者無効訴權ヲ行フヲ得

第九十二條 第九十條ノ無効訴權ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

一 配偶者ト婚姻ノ許諾ヲ與フ可キ者トニ對シテハ其許諾  
ヲ與フ可キ者明瞭又ハ暗黙ノ確認ヲ爲シ若クハ婚姻ノ事  
ヲ知リタル後三個月ヲ過キタルキ

二 許諾ヲ與フ可キ者ノミニ對シテハ三個月内ナリト雖モ  
配偶者成年ニ至リ若クハ死去シタルキ

三 配偶者ノミニ對シテハ成年ニ至リ明瞭又ハ暗黙ノ確認  
ヲ爲シ若クハ三個月ヲ過キタルキ

此外配偶者無効ノ請求ヲ起シ其訴訟中ニ許諾ヲ與フ可キ者  
明瞭ノ確認ヲ爲スキハ無効訴權ハ消滅ス(佛第百八十三條、第  
百九條)

第九十三條 暴行ニ因リ婚姻ヲ承諾シタルキハ其暴行ヲ受ケ  
タル者ニ非サレハ無効ヲ請求スルヲ得ス

暴行ノ査定ハ第八百三十五條以下ノ規則ニ從フ(佛第百八十  
條)

第九十四條 詐偽ノ爲メ身上ノ錯誤ニ陷リ婚姻ヲ承諾シタル  
キハ其錯誤ニ陷リタル者ニ非サレハ無効ヲ請求スルヲ得

ス(同上)

第九十五條 前二條ノ場合ニ於テ配偶者其暴行ヲ免脱シ若クハ其錯誤ヲ認知シタル時ヨリ明瞭ノ確認ヲ爲シ若クハ<sup>三</sup>一個月間引續キテ同居シタルキハ婚姻ノ無効ヲ請求スルヲ得ス其同居セサル場合ニ於テモ無効訴權ハ一年ヲ以テ消滅ス(佛第一百八十一條)

第九十六條 婚姻無効ノ訴訟中裁判所ハ夫婦一方ノ請求ニ依リ若クハ職權ヲ以テ夫又ハ婦ニ住家ヲ去ルヘキヲ命スルヲ得(伊第一百五條)

第九十七條 無効ノ裁判宣告アリタル婚姻ハ法律ニ特定スルモノヲ除クノ外雙方若クハ一方ニ對シテハ其善意ナリシキニ非サレハ民法上ノ効果ヲ生セス  
善意ハ法律上又ハ事實上ノ錯誤ニ原由スルヲ問ハス婚姻ヲ

爲シタル當時ニ存スルヲ以テ足レリトス(佛第二百一條、伊第一百十六條)

第九十八條 然レモ無効ノ婚姻ハ其子ニ對シテハ其出生ノ婚姻前後ナルヲ問ハス雙方ノ善意ヲラサルキト雖モ常ニ民法上ノ効果ヲ生ス(佛第二百二條伊同上)  
夫婦共ニ善意ヲラサルキハ裁判所ハ子ノ監護ニ任ス可キ者ヲ定ム可シ

第八節 婚姻ノ効果

第一款 夫婦ノ權利及ヒ義務

第九十九條 夫婦ハ互ニ信實ヲ守リ住居ヲ同クシ相扶助ス可シ

第一百條 夫ハ婦ヲ保護シ婦ハ夫ニ聽順ス可シ(佛第二百十二條、伊第一百六條)



民法

夫ハ婦ヲ住居ニ<sup>の所</sup>迎待<sup>ス</sup>婦ハ夫ノ住居ヲ定ムル處ニ隨行ス可シ(佛第二百十三條、第二百十四條、伊第三百三十一條、第三百三十二條)

第一百一條 夫婦ハ其資力ニ應シテ婚姻ヨリ生スル一切ノ費用ヲ負擔ス可シ

夫ハ婦ニ對シ身分相應ノ給養ヲ爲ス可シ(伊第三百三十二條第二項)

第一百二條 正當ノ理由アリテ夫婦ノ一方同居ヲ拒ムルハ地方裁判所ハ會議局ニ於テ夫婦ノ陳述及ヒ檢事ノ意見ヲ聽キ其義務ヲ免スルヲ得(白第二百十條)

裁判所ハ共同子ノ監護及ヒ教育ニ關スル夫婦ノ權利義務並ニ夫婦ノ一方ヨリ他ノ一方ニ支給スル可キ養料ヲ定ム可シ

第一百三條 夫婦ノ中正當ノ理由ナクシテ同居ヲ拒ム者ハ子ノ監護及ヒ養料ニ權利ヲ有セス

第二款 婦ノ無能力

第一百四條 婦ハ夫ノ允許ヲ得ルニ非サレハ贈與ヲ爲シ又ハ受諾シ不動産ヲ<sup>移付</sup>シ書入<sup>レ</sup>又ハ質入<sup>シ</sup>借財ヲ爲シ元本ヲ讓渡<sup>シ</sup>質入<sup>シ</sup>又ハ領収<sup>シ</sup>保證ヲ約<sup>シ</sup>及ヒ使役<sup>ノ</sup>賃貸ヲ爲<sup>ヌ</sup>ヲ得ス并ニ右諸般ノ行爲ニ關シテ和解ヲ爲シ仲裁ヲ受ケ及ヒ訴訟ヲ起スヲ得ス(伊第三百三十四條、佛第二百十七條)

第一百五條 夫ノ允許ハ特定又ハ總括ナルヲ得但シ總括ノ允許ハ公正證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ與フルヲ得ス

夫ハ夫婦財産契約ニ依リ與ヘタル允許ト雖モ之ヲ廢止スルヲ得(伊同上第二項、佛第二百二十三條)

第一百六條 左ノ場合ニ於テハ婦ハ夫ノ允許ヲ得ルヲ必要トセス

一 夫未成年ナル中失踪ノ推測アリタル中若クハ民事上又

ハ刑事上ノ禁治産ヲ受ケタルキ

二 婦商業ヲ營ムキ(伊第三百三十五條、佛第二百二十二條、第二百二十條)

第七條 夫其婦ニ允許ヲ與フルヲ拒ムキ若クハ夫ノ不在ニ因リ其允許ヲ請フノ困難ナルキハ婦ハ其住所ノ地方裁判所ノ允許ヲ請求スルヲ得(伊第三百三十六條、佛第二百十八條)

夫ハ場合ニ依リ婦ノ得タル允許ノ廢止ヲ裁判所ニ請求スルヲ得

第八條 夫ハ婦ニ與ヘタル允許ニ因リ一身上ニ義務ヲ負擔セス但シ夫婦財産契約ノ效果ニ依リ此規則ニ變更ヲ生スルハ格別ナリトス  
裁判所ノ與ヘタル允許ハ夫ノ利益ヲ害スルヲ得ス

第九條 夫又ハ裁判所ノ允許ヲ得シテ婦ノ爲シタル行爲ハ無効トス

此無効ハ夫婦及ヒ婦ノ承權人ニ非サレハ之ヲ請求スルヲ得ス(伊第三百三十七條、佛第二百二十五條)

第十條 婦ハ夫ノ允許アルニ非サレハ其行爲ノ確認ヲ爲スヲ得ス

夫ノ與ヘタル確認ハ婦之ヲ了知セサルキト雖モ夫婦ニ對シテ其効ヲ有ス

婦ノ請求ニ依リ裁判所ノ與ヘタル確認ハ夫ニ對シテ其効ヲ有セス

第十一條 夫婦ノ間ニ於テ利益ノ相反スル行爲ヲ爲サントスルキハ婦ハ裁判所ノ允許ヲ得ルヲ必要トス(伊第三百三十六條)

裁判所ノ允許ヲ得サル行爲ノ無効ハ婦又ハ其承權人ニ非サ  
レハ之ヲ請求スルヲ得ス

裁判所ハ婦ノ請求ニ依リ其行爲ノ確認ヲ爲スヲ得

第一百十二條 夫ニ屬スル無効訴權ハ婚姻ノ解離ニ因リ消滅ス

婦又ハ其承權人ニ屬スル無効訴權ハ婚姻解離ノ日ヨリ五年

ヲ以テ消滅ス

此他第六十八條第七十一條第七十四條第七十五條

第七十八條ハ此無効訴權ニ適用ス

第九節 婚姻ノ解離

第一百十三條 婚姻ハ左ノ原由ニ依リ解離ス

- 一 夫婦ノ一方ノ死去
- 二 婚姻無効ノ裁判宣告
- 三 離婚(佛第二百二十八條)

第百十四條

第十節 罰則

第百十四條 婚姻ノ公告ヲ爲サス又ハ證人ノ立會ナクシテ其

公式ヲ行ヒタル身分取扱人ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ

處ス

第七十七條ノ公告ヲ爲サシテ外國ニ於テ婚姻ヲ行ヒタル

者并ニ其婚姻ヲ許諾シタル者ハ右同一ノ罰金ニ處ス(佛第百

九十二條伊第二百二十三條)

第百十五條 婚姻ノ無効ヲ惹起スヘキ法律上ノ原由アルヲ

知リテ其公式ヲ行ヒタル身分取扱人ハ一月以上一年以下ノ

輕禁錮ニ處シ十圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加ス(伊第百二

十四條白第二百三條)

第百十六條 雙方ノ中婚姻ノ無効ヲ惹起シタル原由ヲ知リテ

他ノ一方ニ之ヲ隱秘シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮

ニ處シ十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但シ被害者ハ現實ノ損害ヲ證明セスト雖モ其賠償ヲ請求スルヲ得(伊第二百二十七條)

第四百十七條 第四十二條ニ違背シテ再婚シタル婦ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
配偶者及ヒ身分取扱人前婚ノ存シタルヲ了知シタルハ右同一ノ罰金ニ處ス(伊第二百二十八條)

第四百十八條 此他本章ノ規則ニ違背シタル身分取扱人ハ其違背ノ如何ナルヲ問ハス貳圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス(伊第二百二十六條)

第五章 離婚

第一節 雙方協議ノ離婚

第四百十九條 夫婦ハ下ニ定メタル條件及ヒ法式ニ從ヒ其協議

ヲ以テ離婚ヲ爲スヲ得

第二百十條 如何ナル場合ニ於テモ離婚スル夫婦ハ第四章第一節ノ規則ニ從ヒ各其父母又ハ尊屬親ノ許諾ヲ得ルヲ要ス但シ其死去シ若シ其意ヲ表スルコト能ハサルハ此限ニ在ラズ(佛第二百七十八條)

第二百十一條 協議ヲ以テ離婚セント欲スル夫婦ハ豫メ證書ヲ作り左ノ諸件ヲ定ム可シ

- 一 離婚ノ豫試中夫婦ノ一方移居スヘキ家屋
- 二 夫又ハ婦ノ資力缺乏スルハ豫試中其配偶者ヨリ支給スヘキ養料
- 三 豫試中及ヒ離婚ノ後其子ニ關スル處置
- 四 財産ニ關スル夫婦互相ノ權利ノ分定(佛第二百七十九條)

第二百八十條



婦ノ意思及ヒ証明書類ノ呈出ヲ承認ス可シ(佛第二百八十七條)

書記ハ調書ヲ作り夫婦同伴人及ヒ判事ト共ニ署名捺印ス可シ若シ夫婦又ハ同伴人署名スルヲ能ハサルキハ其事由ヲ記載ス可シ

判事ハ三日内ニ其始末ヲ裁判所ニ報告スル旨ヲ口達シ且ツ其旨ヲ調書ノ末ニ記載ス可シ(佛第二百八十七條、第二百八十八條)

第二百二十七條 檢事ハ書記ノ送致スル書類ヲ受取り夫婦カ前諸條ノ法式ヲ遵守シ及ヒ條件ヲ具備シタルヲノ證據ヲ認ムルキハ法律ハ離婚ヲ允許スト云ヒ反對ノ場合ニ於テハ法律ハ離婚ヲ允許セスト云フノ意見ヲ陳フ可シ  
裁判所ハ會議局ニ於テ法式ノ遵守及ヒ條件ノ具備如何ヲ審

査シ離婚ヲ允許スルキハ理由ヲ付セヌ又反對ノ場合ニ於テハ理由ヲ付シテ其裁判ヲ宣告ス可シ(佛第二百八十九條、第二百九十條)

第二百二十八條 離婚ヲ允許セサル判決ニ對スル控訴ハ夫婦異別ノ控訴狀ヲ以テ各之ヲ爲シ且ツ始審ノ判決ヨリ早クモ十日ノ後又遅クモ一个月内ニ之ヲ爲スニ非サレハ受理ス可カラス(佛第二百九十一條)

第二百二十九條 控訴院ノ檢事長ハ訴訟書類ヲ受取りタル日ヨリ十日内ニ其意見書ヲ差出シ又控訴院ハ其意見書ヲ受取りタル日ヨリ十日内ニ會議局ニ於テ專任判事ノ報告ヲ聽キ裁判ヲ爲ス可シ(佛第二百九十三條)

第二節 特定原由ノ爲メ一方ヨリ爲ス離婚

第一款 離婚并ニ不受理ノ原由

戸下八〇後

第三百十條 離婚ハ法律ニ定メタル理由アルニ非サレハ之ヲ請求スルヲ得ス(伊第四百四十九條)

第三百十一條 離婚ヲ請求スルヲ得ヘキ理由左ノ如シ

一 姦通又ハ太甚シキ不行跡(佛第二百二十九條第二百三十條)

二 同居ニ堪ヘサルヘキ暴虐脅迫及ヒ重大ノ侮辱(伊第五百十條佛第二百三十一條)

三 重罪ノ處刑宣告并ニ竊盜詐欺取財家資分散私印私書偽造及ヒ猥褻ノ罪ニ付重禁錮一年以上ノ處刑宣告(佛第二百

三十二條)

四 故意ノ棄絶(伊第五百十條)

五 失踪ノ宣言

第三百十二條 離婚ノ理由タル事實ノ生シタル後若クハ離婚

ノ請求ヲ爲シタル後夫婦ノ間和諧アリタルハ離婚ノ請求ヲ受理ス可カラス但シ和諧ノ後生シタル事實ニ付離婚ヲ請求スルハ以前ノ事實ヲ援用スルヲ得(佛第二百七十二條)

第二百七十三條

第三百十三條 離婚ノ請求ヲ爲ス者ニ對シ存スル離婚ノ理由ハ其請求不受理ノ理由ト爲ス此場合ニ於テハ他ノ一方モ反訴ヲ以テ離婚ヲ請求スルヲ得然レモ第三百十一條第三ニ記載スル重罪又ハ輕罪ノ處刑宣告ヲ受ケタル者ハ其配偶者ノ處刑宣告ヲ理由トシテ離婚ヲ請求スルヲ得ス

第二款 假處置

第三百十四條 離婚ノ訴訟中子ノ監護ハ原告又ハ被告タルヲ問ハス夫ニ屬ス

然レモ地方裁判所ハ婦親族若クハ檢事ノ請求ニ依リ子ノ利益ヲ慮リ婦又ハ第三者ニ其監護ヲ命スルヲ得(佛第二百六十七條白第二百四十條)

第三百三十五條 婦ハ原告又ハ被告タルヲ問ハス訴訟中裁判所ノ允許ヲ得テ共同ノ住家ヲ去ルヲ得此場合ニ於テハ衣服其他日用ノ物品ヲ持去リ且必要アルキハ養料及ヒ訴訟費ヲ請求スルヲ得

裁判所ハ夫ノ意見ヲ聽キ婦ノ移居スヘキ家屋ヲ指示ス可シ若シ婦正當ノ理由ナクシテ其家屋ヲ去ルキハ夫ハ養料及ヒ訴訟費ヲ拒ムヲ得(佛第二百六十八條、第二百六十九條、白第二百三十八條)

第三百三十六條 特例婚姻及ヒ婚姻ニ由ル縁組ノ場合ニ於テハ裁判所ハ離婚ノ訴訟中夫ヲシテ共同ノ住家ヲ去ラシムルヲ

ナ得 此は令に於てハ前条一項規則の適用ス

第三百三十七條 裁判所ハ夫婦ノ中住家ヲ去ル者ノ請求ニ依リ其權利ヲ保存スル爲メ必要ノ處置ヲ命スルヲ得(佛第二百七十條、第二百七十一條、白第二百四十一條)

第三款 離婚ノ訴

第三百三十八條 離婚ヲ求ムルノ訴權ハ夫婦ノミニ屬シ其一方死去スルキハ消滅ス隨テ離婚ヲ宣告シタル判決未タ確定セサルキハ當然其効ヲ失フ(白第二百二十九條)

第三百三十九條 夫婦ノ一方民事上ノ禁治産ヲ受ケタルキハ後見人若クハ副後見人ハ親族會ノ允許ヲ得テ離婚ヲ請求スルヲ得(白第二百三十條)

第四百十條 離婚ヲ求ムル原由ノ證據ハ普通法ニ從ヒ之ヲ立ツ可シ但シ自認又ハ宣誓ヲ以テ證スルヲ得ス又親族若ク



ハ雇人ノ身分ニ原由スル忌避ノ規則ヲ適用セス(白第二百三十三條第二三十五條)

第四百十一條 離婚ノ訴訟ヲ提起シ審理シ及ヒ判決スルノ手續ハ訴訟法ニ之ヲ規定ス

第三節 離婚ノ効果

第四百十二條 離婚ハ之ヲ宣告スル判決確定ノ後ニ非サレハ

其効果ヲ生セス

若シ適法ニ公示ヲ爲サ、ルキハ善意ノ第三者ニ離婚ノ判決

ヲ對抗スルヲ得ス

第四百十三條 夫婦中離婚ノ裁判宣告ヲ得タル直者ハ子ノ監

護ニ任ス可シ

然レモ裁判所ハ親族又ハ檢事ノ請求ニ依リ子ノ利益ヲ慮リ

之ヲ他ノ一方又ハ第三者ノ監護ニ付スルヲ得(佛第三百三

子ノ利益  
依縁起  
子ノ利益  
依縁起

條

第四百十四條 夫婦ノ中子ノ監護ニ任スル者ハ親權ヲ行フ

第三者ハ其監護スル子ノ行狀ニ付不満ノ事由アルキハ其意

見ヲ親族會ニ申立テ親族會ヲシテ父母ノ意見ヲ聽キ第八章

ニ定ムル懲戒處分ヲ允許セシムルヲ得(白第二百四十四條)

第四百十五條 何人ニ子ノ監護ヲ付シタルヲ間ハス父母ハ其

子ノ養成及ヒ教育ヲ檢視スルノ權利ヲ有シ各其資力ニ應シ

テ費用ヲ負擔ス(佛第三百三條)

第四百十六條 夫婦ノ共同子ハ離婚ニ拘ハラズ夫婦財産契約

ノ自己ニ與フル權利ヲ保有ス(佛第三百四條)

第四百十七條 裁判所ハ離婚ノ判決ヲ以テ曲者タル一方ヨリ

他ノ一方ニ養料ヲ給スヘキヲ命スルヲ得其給スヘキ養料

ノ額ヲ定ムルニハ他ノ一方其離婚前ノ地位ヲ保有スルヲ

子ノ利益  
依縁起

1026

標準ト爲ス可シ

此養料ノ義務ハ雙方ノ一方死去シ若クハ之ヲ受ク可キ者再婚シタルキハ止息ス(佛第三百一條)

第六章 親子ノ分限

第一節 正親子ノ分限

第一款 正親子ノ分限ノ證據

第四百十八條 婚姻ノ成立確實ナルキハ其婚姻ヨリ生レタル子ノ母子ノ分限ハ出生證書ヲ以テ之ヲ證スルヲ得但シ必要アルニ於テハ出生證書ニ指示スル者ト同人ナルヲ證スルヲ要ス(佛第三百十九條)  
此證明ハ證人ヲ以テ之ヲ爲スヲ得但シ其子出生證書ニ反スル身分ヲ占有スルキハ筆記ノ證據アルヲ要ス  
母子ノ分限確實ナルキハ父子ノ分限ノ證據ハ下ニ定ムル法

律上ノ推測ヨリ生ス

第四百十九條 婚姻中ニ懐胎シタル子ハ夫ノ子ト推測ス(伊第百五十九條佛第三百十二條)

第四百十條 婚姻ノ公式ヨリ百八十日後婚姻ノ解離ヨリ三百日內ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懐胎シタル者ト推測ス此期間ハ時ヲ以テ計算ス(伊第一百六十條佛同上)

第四百十一條 前婚ノ解離若クハ夫ノ失踪ヨリ三百日內ニシテ婦ノ再婚ヨリ百八十日後ニ生レタル子ニ關スルキハ地方裁判所ハ事實ヲ查定シテ其父子ノ分限ヲ定ム可シ

婚姻ノ解離若クハ夫ノ失踪ヨリ百八十日後ニシテ三百日內ニ生レ母及ヒ第三者カ其庶出ト認知シ且ツ其子正出子ノ分限ヲ有セサルキ亦同シ

第四百十二條 婚姻ノ解離若クハ夫ノ失踪ヨリ三百日後ニ生

レタル子ハ正出ノ子ニ非サルモノトス(佛第三百十五條)

第一百五十三條 出生證書ヲ提出スルヲ能ハサルキハ親子ノ分限ハ正出子タル身分ノ占有ヲ以テ之ヲ證スルヲ得但シ第四百五十六條ノ適用ヲ妨ケス(佛第三百二十條)

第一百五十四條 身分ノ占有ハ夫婦兩人ト其婚姻ヨリ生レタリト主張スル者トノ間其出生ノ時ヨリ親子ノ分限ヲ證スルニ足ル事實ノ集合ヨリ生ス其著明ナルモノ左ノ如シ

一 子ハ常ニ其父ナリト主張スル者ノ氏ヲ稱シタルヲ

二 其父母ナリト主張スル者ハ常ニ之ヲ正出子ノ如ク取扱

ヒ其養成及ヒ教育ニ從事シタルヲ

三 親族及ヒ世上ニ於テ常ニ之ヲ夫婦ノ正出子ト認メタル

ヲ(佛第三百二十一條)

第一百五十五條 何人ト雖モ出生證書ニ符合スル身分ヲ占有ス

ルキハ之ト異ナル身分ヲ請求スルヲ得ス

何人ト雖モ出生證書ニ符合スル身分ヲ占有スル者ニ對シ其身分ヲ爭拒スルヲ得ス(佛第三百二十二條)

第一百五十六條 出生證書及ヒ身分ノ占有共ニ存セサルキ若ク

ハ出生證書ニ父母ノ名ヲ記セス又ハ偽名ヲ記シタルキハ母子ノ分限ハ證人ヲ以テ之ヲ證スルヲ得(佛第三百二十三條)

出生證書ニ符合スル身分ノ占有アルキト雖モ子ノ變換若クハ偽設アリタルヲ主張スルキ亦同シ(伊第七十四條)

第一百五十七條 原告人ハ其母ナリト主張スル者ノ子ヲ生ミタルヲ及ヒ其生ミタル者ト同人ナルヲ證ス可シ但シ別ニ出生證書ノ偽造若クハ其記載ノ虛妄ヲ證スルニ及ハス

此舉證ハ筆記ノ蓋端アルカ若クハ證明ヲ待タスシテ確實ナル事實ヨリ生スル重大ノ憑徴アルニ非サレハ之ヲ允許ス可

カラス(佛同上)

老西之國に居る

第五百十八條 筆記ノ證端トハ家ノ系譜父母ノ帳簿書類若クハ尺牘并ニ現時生存スルニ於テハ訴訟ニ利益ヲ有スヘク若クハ現ニ訴訟ニ關係スル者ニ出テタル公私ノ書類ヲ云フ(佛第三百二十四條)

第五百十九條 原告人カ其母ナリト主張スル婦ノ子ニ非サルヲ又其婦ノ子タルヲノ證明アリト雖モ其婦ノ夫ノ子ニ非サルヲノ反證ハ諸般ノ方法ヲ以テ之ヲ立ツルヲ得(佛第三百二十五條)

第二款 否認訴權

第一百六十條 婚姻中ニ懐胎シタル子ノ否認訴權ハ左ノ場合ニ非サレハ之ヲ允許セス  
一 子ノ出生ヨリ溯算シ第百八十日ヨリ第三百日ニ至ルノ

期間中夫カ失踪又ハ離隔ノ原由并ニ外見ノ無勢又ハ重病ノ効果ニ依リ事實上其婦ト同室スル能ハサリシヲ證スル中(佛第三百十二條第二項)

二 離婚ノ請求中夫婦別居ノ場合若クハ婦ノ姦通ノ場合ニ於テ尙ホ他ノ事實ヲ以テ夫カ其婦ト同室スル能ハサリシヲ又ハ生理上夫ノ子ニ非サルヲ證スル中(佛第三百十三條)

第一百六十一條 婚姻ノ公式ヨリ百八十日ヲ過キサル前ニ生レタル子ノ否認訴權ハ條件ヲ要セス  
然レモ夫其子ヲ我子ト明瞭ニ認知シタル中ハ否認訴權ヲ行フヲ得ス  
左ノ場合ニ於テハ暗黙ニ之ヲ認知シタルモノトス  
一 夫其婚姻前ニ懐胎ノ事ヲ了知シタル中

二 夫其誘拐又強姦シタル女ト婚姻ヲ爲シタルキ  
 三 夫カ自己又ハ代理人ヲ以テ出生ヲ申述シ若クハ證人トシテ立會ヒタルキ但シ出生證書中子ノ認知ニ反スル記載アルキハ格別ナリトス  
 四 夫其子ヲ養子ノ如ク取扱ヒタルキ  
 否認セラレサル子ハ其出生ノ時ヨリ正出子トス(佛第三百十四條伊第六十一條)

第三百六十二條 否認訴權ハ夫ノミニ屬ス但シ子ノ出生後ニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス

第三百六十三條 夫カ民事上ノ禁治產ヲ受ケタルキハ其後見人若クハ副後見人ハ親族會ノ允許ヲ得テ否認訴權ヲ行フヲ得

第三百六十四條 夫否認訴權ヲ行ハスシテ適法ノ期限内ニ死去

シタルキハ其血族ハ三親等ニ至ルマテ之ヲ行フヲ得  
 其他包括名義ノ相續人ハ子カ相續財產ヲ占有シ又ハ其占有ヲ侵害セントスルニ非サレハ否認訴權ヲ行フヲ得ス(佛第三百十七條)

第三百六十五條 否認訴權ハ子ノ住所ノ地方裁判所ニ申立ツ可シ其子未成年ナルキハ裁判所ハ之ヲ代表スル爲メ臨時保人ヲ撰任シ且ツ職權ヲ以テ其母ヲ訴訟ニ召喚ス可シ(伊第六十八條)

第三百六十六條 夫カ子ノ出生ノ場所ニ在ルキハ出生ヨリ三個月ノ期限内ニ否認訴權ヲ行フ可シ  
 夫其婦ト其居ヲ異ニシ若クハ子ノ出生ヲ夫ニ隱秘シタルキハ三個月ノ期限ハ其出生ヲ了知シタル日ヨリ起算ス  
 夫カ子ノ出生ノ場所ニ在ラサルキハ其期限ヲ四個月トシ其

出生ヲ了知シタル日ヨリ起算ス(佛第三百十六條)

第六十七條 血族及ヒ相續人ハ其訴權ヲ行フヲ得ヘキ日ヨリ四個月ノ期限ヲ有ス

第六十八條 此等ノ期限ハ時効ノ中斷及ヒ停止ノ原由ニ服セス之ヲ過クレハ其訴權ヲ失フ但シ失權ノ舉證ハ被告人ニ在リトス

第三款 親子タル身分ノ請求及ヒ争拒ノ訴權

第六十九條 親子タル身分請求ノ訴權ハ子及ヒ其卑屬親ノミニ屬ス此訴權ハ時効若クハ拋棄ニ由リテ消滅セス(佛第三百二十八條)

第七十條 子ノ卑屬親ヲ除キ其他ノ相續人ハ金錢上ノ利益ヲ有レ且ツ其子二十五年前<sup>生前</sup>死去シ若クハ其身分ヲ了知セスレテ死去シタル場合ニ非サレハ此訴權ヲ行フヲ得ス(佛

第三百二十九條

又子其訴訟中ニ死去シタルキハ相續人ハ金錢上ノ利益ヲ有スレハ之ヲ繼續スルヲ得但シ訴訟ノ願下若クハ訴訟手續ノ消滅アリタルキハ此例ニ在ラス(佛第三百三十條)

第七十一條 何人ト雖モ其血族ナリト主張スル者ニ對シ其身分ヲ争拒スルヲ得此訴權ハ時効拋棄若クハ承認ニ由リテ消滅セス

七十二條 身分ニ關スル判決ハ既判事件ノ効ヲ定ムル規則ニ從フ可シト雖モ二箇ノ判決相牴觸スルキハ子ハ其父ノ氏ヲ稱<sup>スル</sup>其族稱ヲ冒<sup>スル</sup>ヲ得

第二節 庶親子ノ分限

第一款 庶親子ノ分限ノ證據

第七十三條 庶出子ハ其出生證書ヲ以テ母子ノ分限ヲ證ス

月廿二日議

ルヲ得但シ必要アルニ於テハ第四百四十八條第二項ニ從ヒ  
出生證書ニ指示スル者ト同人ナルヲ證ス可シ

第七十四條 子ト其父若クハ母ナリト主張スル者トノ間親  
子ノ關係ヲ指示スルニ足ル事實ノ集會（父ノ集會）ルハ子ハ父若ク  
ハ母ニ對シ其身分ノ占有ヲ以テ親子ノ分限ヲ證スルヲ得

第二款 庶出子ノ認知

第七十五條 庶出子ノ認知ハ身分取扱人若クハ公證人（父）作  
タル證書ヲ以テ之ヲ爲スヲ要ス（佛第三百三十四條伊第  
百八十一條）

第七十六條 此認知ハ父母各躬ラ之ヲ爲スヲ要ス無能力  
者ト雖モ躬ラ之ヲ爲スヲ得  
代理人ヲ以テ之ヲ爲スハ特別キレテ公正ノ委任狀アルヲ  
要ス

判例

第七十七條 父母ハ胎内ニ在ル子ト雖モ認知スルヲ得但  
シ父ハ母ノ承諾ヲ得ルヲ要ス

又父母ハ其死去シタル子ト雖モ認知スルヲ得  
第七十八條 夫若クハ婦ハ其婚姻中認知シタル子ヲ其住家  
ニ入ル、ヲ得ス但シ配偶者承諾スルハ格別ナリトス（伊  
第八十三條）

第七十九條 庶出子ノ認知ハ左ノ場合ニ於テ無効トス

- 一 知覺錯亂中ニ之ヲ爲シタル中
- 二 公正證書ヲ以テ之ヲ爲サ、ル中
- 三 子ノ人違アリタル中

第八十條 何人ニ限ラス利益ヲ有スル者ハ何時ニテモ認知  
ノ眞實ナラサルヲ申立テ之ヲ認（父）撃スルヲ得（佛第三百三  
十九條）

五三  
五三

無能力者ノ爲シタル認知ヲ無効ト爲ス詐欺若クハ誑惑アル  
其其他普通法ニ認許スル無効ノ原由アルキ亦同シ

第百八十一條 子ノ認知ハ一旦之ヲ爲シタルキハ廢滅スルヲ  
得ス但シ遺囑ヲ以テ爲シタル認知ハ此限ニ在ラズ

第百八十二條 父母若クハ其子認知證書ニ指示スル者ト同人  
ニ非サルコトノ争ヲ生シタルキハ普通法ニ從ヒ其同人ナルコ  
ト證明スルコトヲ得

第三款 親子ノ分限搜索ノ訴權

第百八十三條 父子ノ分限ヲ搜索スルハ法律ノ禁止スル所ト  
ス但シ左ノ場合ニ限り子及ヒ其卑屬親又此等ノ者ノ爲メ子  
ノ母及ヒ代表人ニ特ニ之ヲ允許ス

誘拐又ハ強姦アリタルキ但シ其時期母ノ懷胎ノ時期ニ  
符合スルキハ地方裁判所ハ誘拐又ハ強姦ヲ爲シタル者ノ

十  
十

子ト認定スルコトヲ得(佛第三百四十條)

二 婚姻ノ約束又ハ誑惑アリタルキ但シ其約束又ハ誑惑ノ  
筆記ノ證端アルカ若クハ證明ヲ待タスシテ確實ナル事實  
ヨリ生スル重大ノ憑徴アルコトヲ要ス

第百八十四條 母子ノ分限ヲ搜索スルハ子及ヒ其卑屬親又此  
等ノ者ノ爲メ子ノ父及ヒ代表人ニ常ニ法律ノ允許スル所ト  
ス(佛第三百四十一條)

此分限ヲ搜索スル者ハ其母ナリト主張スル女ノ分娩シタル  
コト及ヒ其生タル者ハ其子ト同人ナルコトヲ證ス可シ但シ此  
兩件ニ付筆記ニ據ルアルカ又ハ證明ヲ待タスシテ確實ナル  
事實ヨリ生スル重大ノ憑徴アルニ非サレハ其搜索ヲ允許セ  
ス

第百八十五條 第百五十八條及ヒ第百六十九條乃至第百七十



二條ハ之ヲ庶出子ニ適用ス

第四款 庶出子ノ准正出子トス

第百八十六條 庶出子ハ其父母ノ婚姻ニ因リ當然正出子ニ准  
但シ親子ノ分限適法ニ確定シタルヲ要ス(佛第三百三十  
一條)

第百八十七條 死去シタル子ト雖モ其父母ノ婚姻ニ因リ正出  
子ニ准ス此場合ニ於テハ<sup>其</sup>准正ニ效果ハ其子ノ生ミタル正出  
又ハ庶出子ニ利益ス(佛第三百三十二條)

第百八十八條 正出子ニ准セラレタル者ハ婚姻ノ時マテニ其  
分限ノ確定シタルキハ婚姻ノ日ヨリ又婚姻後ニ其分限ノ確  
定シタルキハ其確定ノ日ヨリ正出子ノ權利ヲ有ス(伊第百九  
十七條)

若シ其子數人アルキハ<sup>其</sup>婚姻ノ公式ヨリ百八十日ヲ過キサ

前ニ生レタル子アルキ其倫次ヲ定ムルニハ年齢ニ從フ

第三節 親子ノ分限ヨリ生スル効果

第百八十九條 子ハ終身其父母ニ孝養ヲ盡シ其他尊屬親ニ對  
シテモ尊敬ヲ致ス可シ(佛第三百七十一條)

第百九十條 父母ハ其子ヲ養成シ訓戒シ及ヒ教育スルノ義務  
ヲ負フ(佛第二百三條伊第三百十八條第百八十六條)  
然レモ子ノ教育宗旨及ヒ職業ヲ定ムルハ親權ヲ行フ者ニ屬  
ス之ニ反スル合意ハ無効トス

第百九十一條 正出子ノ父母ハ夫婦財產契約ノ制ニ從ヒ又庶  
出子ノ父母ハ其資力ニ應シテ養成及ヒ教育ノ入費ヲ負擔ス  
可シ

父母其子ヲ養成シ及ヒ教育スルニ充分ノ資力ヲ有セサルキ  
若クハ父母死去シテ子ノ財產不足スルキハ尊屬親其他親族

ハ養料ノ義務ノ順序ニ從ヒ其入費ヲ負擔ス可シ(伊同上)

第九十二條 父母共ニ其義務ヲ盡サ、ルキ若クハ親權ヲ行フ者其義務ヲ盡サ、ルキハ血族及ヒ檢事ハ地方裁判所ニ訴フルヲ得

何人ト雖モ父母其教育ノ義務ヲ盡サ、ルヲ聞知シタルキハ之ヲ檢事ニ通知ス可シ

裁判所ハ父母ニ對シ親權ノ喪失ヲ宣告スルヲ得

第九十三條 子ハ其父母ニ對シ婚姻其他ノ方法ニ依リ一家ヲ成スノ資財ヲ求ムル訴權ヲ有セス(佛第二百四條)

第九十四條 正出子ハ其父ノ氏ヲ稱シ其族稱ヲ冒ス

第九十五條 庶出子ハ其父母ノ中親子ノ分限確定シタル者ノ氏ヲ稱シ其族稱ヲ冒ス又父母ニ對シ親子ノ分限確定シタルキハ其最初ニ確定スル者ノ氏ヲ稱シ其族稱ヲ冒ス但シ

日廿廿日

成年若クハ認知ヨリ一个年内ニ身分取扱人ニ申述シ其氏ヲ撰擇スルヲ得

第七章 縁組

第九十六條 法律ハ三種ノ縁組即チ普通ノ縁組婚姻ニ由ル縁組及ヒ遺囑ノ縁組ヲ認許ス

縁組ハ一旦成立シタルキハ之ヲ廢棄スルヲ得ス  
本章ノ條例ハ特別ニ規定スルモノヲ除クノ外三種ノ縁組ニ適用ス

第一節 縁組ノ爲メ必要ナル條件

第九十七條 何人ト雖モ滿四十一年以上ニ其養ハントスル者ヨリ年長ナルニ非サレハ養子ヲ爲スヲ得ス(佛第三百四十三條伊第二百二條)

然レモ四十年未滿ノ者ト雖モ婚姻ニ依リ養子ヲ爲スヲ得

三項別  
フカヘテ  
他ノ  
養子

養子

養子

由ル

遺囑ヲ以テ養子ヲ爲スノ能力ハ遺囑ヲ爲ス能力ニ關スル規則ニ從フ

第九十八條 自家ニ正出若クハ庶出ノ子孫又ハ養子アル者ハ特許ヲ得ルニ非サレハ養子ヲ爲スヲ得ス但シ婚姻又ハ遺囑ニ由ル縁組ハ此例ニ在ラス(同上)

特許ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ與フ可カラズ  
第九十九條 後見人ハ其管理ノ計算ヲ爲サ、ル前ニ其後見スル未成年者ヲ養子ト爲スヲ得ス但シ遺囑ノ縁組ハ此例ニ在ラス(伊第二百七條)

管理ノ計算ハ未成年者ノ副後見人ニ之ヲ爲シ親族會ノ允許ニ付ス  
第二百條 配偶者マル者、其承諾ヲ得ルニ非サレハ養子ヲ爲シ又ハ養子ト爲ルヲ得ス但シ配偶者ノ失踪宣言アリタル

頂

物

ハ此例ニ在ラス遺囑ヲ以テ養子ヲ爲ス亦同(佛第三百四十四條)  
第二百一條 何人ト雖モ夫婦、養子ト爲シ、外同時又ハ順次ニ數人ノ養子ト爲ルヲ得ス(佛同上)

第二百二條 家督相續ヲ爲シ戸主ト爲リタル者ハ他人ノ養子ト爲ルヲ得ス但シ家督ノ相續セサル時ハ其限ニ在ラス

第二百三條 普通ノ縁組ハ契約ヲ以テ之ヲ爲スモノトス  
縁組契約ハ養親又ハ養子ノ住所若クハ居所ノ身分取扱人ノ前ニ於テ證人二名ノ立會ニテ之ヲ爲ス可シ(佛第三百五十三條)

第二百四條 未成年者ノ縁組ハ其父母ノ承諾ヲ以テ之ヲ爲スヲ得但シ其子現場ニ在ルヲ要ス(佛第三百四十六條)

再

五

記

呼ぶ  
子  
お  
り  
ま  
す

父母ノ中一人死去シ又ハ其意ヲ表スルコト能ハサルキハ他ノ一人ノ承諾ヲ以テ足レリトス

第二百五條 父母共ニ死去シ又ハ其意ヲ表スルコト能ハサルキハ親族會其縁組ヲ承諾スルコトヲ得

育兒院ニ在リテ父母ノ知レサル子ノ縁組ハ院長之ヲ承諾スルコトヲ得

第二百六條 未成年者ノ縁組ハ之ヲ爲ス地ノ地方裁判所ノ認可ヲ經ルニ非サレハ未成年者ニ對シテ完成セス

裁判所ノ認可アリタル縁組ハ契約ノ日ヨリ其効果ヲ生ス可シ(伊第二百十七條)

第二百七條 右ニ就キ未成年者ノ代表人ハ契約ヨリ一个月内ニ契約書ノ謄本ヲ地方裁判所長ニ差出ス可シ

裁判所ハ其縁組ノ條件完備スルヤ其縁組ハ未成年者ノ爲メ

不利益ト爲ラサルヤ及ヒ其養親ハ不名譽ノ者ニ非サルヤヲ  
考查シ會議局ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽キ他ノ手續ヲ要セス又  
理由ヲ付セス單ニ縁組ヲ允許ス若クハ縁組ヲ允許セスト宣  
告ス可シ(佛第三百五十四條以下)

第二百八條 縁組ノ契約ヲ爲シ未タ地方裁判所ノ認可ヲ經サル前ニ養親ノ死去シタルキト雖モ未成年者ノ代表人ハ其手續ヲ繼續シ縁組ヲ完成スルコトヲ得(佛第三百六十條)

第二百九條 身分取扱人ハ豫メ雙方ヨリ左ノ書類ヲ呈示セシム可シ

- 一 雙方ノ出生證書若クハ之ニ代用スル保證書
- 二 養親住所ノ身分證書ノ簿冊ニ記載シタル正出子庶出子及ヒ養子ナキコトヲ證スル認定書又ハ縁組ノ特許書
- 三 配偶者アルキハ其承諾書失踪ノ宣言書若クハ死去證書

四 副後見人ニ管理ノ計算書ヲ差出シタル證明書

第二百十條 身分取扱人ハ縁組ノ妨碍ト爲ルヘキ法律上ノ原由アルニ非サレハ其縁組ヲ拒ムコトヲ得ス

身分取扱人ハ其拒絶ノ理由ヲ明記シタル拒絶書ヲ授付ス可  
レ  
當事者其拒絶ヲ以テ不當ナリト思料スルキハ之ニ對シテ地  
方裁判所ニ抗告スルコトヲ得

第二百十一條 婚姻ノ章第七十八條及ヒ第七十九條ノ規則ハ  
之ヲ縁組ニ適用ス但シ本章第一節ニ定メタル條件ニ違背セ  
サルコトヲ要ス

第二百十二條 婚姻ニ由ル縁組ハ婚姻ノ公式ニ因テ成立ス  
此場合ニ於テハ縁組ニ必要ナル條件ノ欠缺スルヲ原由トシ  
テ婚姻ノ章ニ定ムル規則ニ從ヒ故障ヲ爲スコトヲ得

第二百十三條 婚姻ノ公式ヲ行フ時養親ハ豫メ身分取扱人ニ

縁組ヲ爲スノ意思ヲ申述ス可シ

身分取扱人ハ養子ト爲ル者ニ婚姻及ヒ縁組ヲ承諾スルヤテ  
質問ス可シ

養子ト爲ル者ノ婚姻ニ與フル承諾ハ縁組ノ承諾ヲ帶有ス

第二百十四條 遺囑ニ由ル縁組ハ公正ノ遺囑書ヲ以テ之ヲ爲  
ス可シ

此縁組ハ養親死去ノ日ニ家督相續ヲ爲スヘキ正出若クハ庶  
出ノ子孫及ヒ生存者間ノ養子アラサルキハ有効トス(佛第三  
百六十六條)

此縁組ノ受諾ハ相續開始ノ地ノ身分取扱人ニ之ヲ爲ス可シ  
第二百十五條 養子ノ未成年中ニ遺囑ノ開始シタルキハ第二  
百四條及ヒ第二百五條ニ指定シタル者縁組ヲ受諾ス可シ

此受諾ハ第二百七條ノ手續ニ從ヒ地方裁判所ノ認可ニ付ス  
ルヲ要ス

第二百十六條 身分取扱人ハ縁組ノ契約婚姻ノ公式又ハ遺囑  
縁組ノ受諾ノ後第四百七十六條ニ從ヒ縁組證書ヲ作ル可シ  
第二百十七條 未成年者ノ縁組ハ第四百七十八條ニ從ヒ其認  
可ノ裁判ヲ縁組證書ノ欄外ニ追記シタル後ニ非サレハ第三  
者ニ之ヲ對抗スルヲ得ス

第三節 縁組ノ證據

第二百十八條 縁組ハ縁組證書ヲ以テ之ヲ證ス可シ  
若シ縁組證書ヲ呈示スルヲ能ハサルハ身分證書ノ章第四  
百五十八條ニ規定スルモノ、外尚ホ左ノ證書ニ依リ縁組ヲ  
證スルヲ得  
婚姻ニ由ル縁組ニ係ルハ其事由ヲ記載シタル婚姻證

書

二 未成年者ノ縁組ニ係ルハ之ヲ認可シタル裁判宣告書

第二百十九條 婚姻證書ニ縁組ノ事由ヲ記載セサルハト雖モ  
身分ノ占有アリテ婚姻公告書ニ符合スルハ之ニ依リ其縁  
組ヲ證スルヲ得  
婚姻ノ章第八十二條及ヒ第八十四條ノ規則ハ之ヲ縁組ニ適  
用ス

第四節 縁組ノ不成立及ヒ無効

第二百二十條 縁組ハ左ノ場合ニ於テハ成立セス  
一 公式ヲ欠キタルハ  
二 人違ニ由リ若クハ心神喪失ノ時縁組ヲ爲シタルハ  
三 裁判所未成年者ノ縁組ヲ認可セス若クハ當事者期限内  
ニ其認可ヲ請求セサルハ

第二百二十一條 縁組ハ第一節ニ定ムル條件ノ一ヲ欠キタル  
キハ無効トス

此無効ハ養親養子其他何人ニ限ラス現實ノ利益ヲ有スル者  
ヨリ何時ニテモ之ヲ請求スルヲ得

第二百二十二條 官吏ノ管轄違ニ原由スル縁組ノ無効ハ何人  
ト雖モ之ヲ請求スルヲ得但シ一个年ヲ過キタルキハ其請  
求ヲ允許ス可カラス

第二百二十三條 第九十九條及ヒ第二百條ニ違ヒタル縁組  
ノ無効ハ未成年者及ヒ配偶者ニ非サレハ之ヲ請求スルヲ  
得ス

未成年者其成年ニ至リ若クハ配偶者縁組ヲ了知シタル後之  
ヲ確認シ若クハ一个年ヲ過キタルキハ其權利ヲ失フ

第二百二十四條 身上ノ錯誤若クハ暴行ニ原由スル縁組ノ無

効ハ錯誤ニ陥リ若クハ暴行ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ請  
求スルヲ得ス但シ錯誤ヲ認知シ若クハ暴行ヲ免脱シタル  
後確認ヲ爲シ若クハ一个年ヲ過キタルキハ無効ニ補フ

第二百二十五條 未成年者ノ争拒ニ拘ラス縁組ヲ爲シタルキ  
ハ裁判所ハ場合ニ從ヒ未成年者ノ請求ニ依リ其無効ヲ宣告  
スルヲ得但シ未成年者成年ニ至リ確認ヲ爲シ若クハ一个  
年ヲ過キタルキハ其權利ヲ失フ

第二百二十六條 婚姻ニ由ル縁組ニ於テハ婚姻ノ無効ハ當然  
縁組ノ無効ヲ帶有ス然レモ縁組ノ無効ハ婚姻ノ無効ヲ帶有  
セス

### 第五節 縁組ノ効果

第二百二十七條 養子ハ實家ノ氏及ヒ族稱ヲ奪テ養家ノ氏及  
族稱ヲ冒ス可シ(佛第三百四十七條)

第二百二十八條 養子ハ其實家ヲ去リ養家ニ入ルモノトス但  
シ親屬ノ關係ヨリ生スル養料ノ義務ハ爲メニ變更スルヲナ  
シ(佛第三百四十八條)

第二百二十九條 然レモ婦ノ養子ハ其養母ノ實家ノ氏ヲ稱シ  
夫ノ家ニ入ラス

婦其夫ノ子ヲ養子ト爲スルハ養子ハ夫家ノ氏ヲ保有シ其家  
ヲ去ラス但シ特例婚姻ニ於ケル婦其夫ノ子ヲ養子ト爲スル  
ハ前條ノ規則ニ從フ

第二百三十條 縁組ハ養子ト養親及ヒ其親族トノ間養料ノ義  
務ヲ生ス

此義務ハ實親族ノ間ニ於ケルト其規則ヲ同フス(佛第三百四  
十九條)

第二百三十一條 養子ノ未成年ナル中ハ養親ハ之ヲ養成シ訓

戒シ及ヒ教育スルノ義務ヲ負フ(伊第二百十一條)

養親其養子ヲ養成シ及ヒ教育スルニ充分ノ資力ヲ有セサル

中若クハ其死去シテ養子ノ財産不足スル中ハ養家ノ尊屬親

其他ノ親族ハ養料ノ義務ノ順序ニ從ヒ其入費ヲ負擔ス可シ

此義務ハ實家ノ父母尊屬親其他ノ親族ノ義務ニ先ス可シ

第百八十九條第百九十二條及ヒ第百九十三條ハ之ヲ養子ニ

適用ス

第二百三十二條 養親ハ次章ニ定ムル規則ニ從ヒ養子ニ對シ

監護及ヒ懲治ノ權ヲ有ス

第二百三十三條 養子ハ其持參シ又ハ相續贈與遺囑ニ依リ得

タル財産ノ所有權ヲ有ス但シ未成年中其財産ノ管理ハ次章

ノ規則ニ從ヒ養親ニ屬ス

第二百三十四條 養子ハ其縁組ノ日ニ生レタルモノト看做シ

法

割



割 割

其目ヨリ正出子ノ權利ヲ有ス

第二百三十五條 縁組ノ後生レタル養子ノ子ハ養家ニ於テ正孫ト同一ノ地位及ヒ權利ヲ有ス縁組前ニ生レタル子ト雖モ其縁組ニ之ヲ包含シタルキ亦同シ

第二百三十六條 縁組ヨリ生スル相續ノ權利ハ相續ノ章ニ之ヲ規定ス

第六節 罰則

第二百三十七條 本章第二節ノ規則ニ違背シタル身分取扱人ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八章 親權

第一節 父母其子ノ身上ニ有スル權

第二百三十八條 子ハ其成年若クハ自治ニ至ルマテ親權ニ服從ス(佛第三百七十二條)

第二百三十九條 婚姻ノ繼續スル間ハ父親權ヲ行フ(佛第三百七十三條)

若シ父之ヲ行フ能ハサルキハ其間母此權ヲ行フ

若シ父母ノ中一人死去シタルキハ生存者此權ヲ行フ但シ其再婚シテ他家ニ入ルキハ此限ニ在ラス(伊第二百二十條)

第二百四十條 婚姻ノ無効若クハ離婚ノ裁判宣告ヲ受ケル後子ノ監護ニ任スル者親權ヲ行フ能ハス若クハ之ヲ失モタ

ルキハ他ノ一方之ヲ行フ

第二百四十一條 子ハ其服從スル父若クハ母ノ允許ヲ得ルニ非サレハ父母ノ家若クハ其指定シタル家ヲ去ルヲ得ス(佛第三百七十四條)

若シ此允許ナクシテ子其家ヲ去リタルキハ父若クハ母ハ地方裁判所長ニ請願シテ強ヒテ之ヲ歸家セシムルヲ得(伊第

つりて  
る

二百二十一條

第二百四十二條 子ハ其父若クハ母若クハ後見人ノ允許ヲ得ルニ非サレハ未成年中兵役ヲ出願スルヲ得ス(同上)

第二百四十三條 父若クハ母ハ家内ニ於テ其子ヲ懲戒スルノ權ヲ有ス但シ過度ノ懲戒ヲ加フルヲ得ス

第二百四十四條 父若クハ母其子ノ行狀ニ付重大ナル不滿ノ事由ヲ有スルキハ地方裁判所長ニ請願シテ其子ヲ相當ノ感化場若クハ懲戒場ニ入ル、ヲ得

此請願ハ口頭ニテ之ヲ爲スヲ得<sup>ル</sup>又拘引狀<sup>ハ</sup>其事由ヲ明示シ且ツ其他裁判上ノ書面及ヒ手續ヲ用ユルヲ得ス  
入場ノ日數ハ十六年未滿ノ子ナレハ三個月又滿十六年以上ノ子ナレハ六個月ヲ超過スルヲ得ス但シ父若クハ母ハ常ニ裁判所長ニ請願シテ其日數ヲ延長シ又ハ減縮スルヲ得

(佛第三百七十五條以下伊第二百二十二條)

第二百四十五條 父母及ヒ子ハ裁判所長ノ決定ニ對シテ控訴院長ニ抗告スルヲ得

所長及ヒ院長ハ檢事ノ意見ヲ聽キ裁判ス可レ(伊第二百二十三條)

第二百四十六條 父若クハ母ハ必要ノ事情アルニ於テハ同居スル成年若クハ自治ニ至リタル子ヲ其家ヨリ遠サクルヲ得

第二節 子ノ財産ノ管理

第二百四十七條 父ハ一般ノ權利行爲ニ於テ其未成年ナル子ヲ代表シ自己ノ財産ニ於ケル如ク其子ノ財産ヲ管理ス(伊第二百二十四條佛第三百八十九條)

第二百四十八條 此管理ニ於テハ第三百二十九條ニ列記シタ

可  
生

ル行爲ハ尙ホ之ヲ管理所爲ト看做ス  
父ハ地方裁判所ノ允許ヲ得ルニ非サレハ第三百三十條ニ列  
記レタル行爲ヲ爲スヲ得ス此允許ハ必要若クハ利益ノ判  
然タルキニ非サレハ之ヲ與フ可カラス  
後見ノ章ニ於テ動産及ヒ不動産ノ賣買ノ方法ニ關スル規則  
并ニ資本其他所得ノ利用法及ヒ利子ニ關スル規則ハ父ノ管  
理ノ性質ニ違ハサルニ於テハ之ヲ此管理ニ適用ス  
第二百四十九條 子ハ其父ト異ナル職業若クハ勞力ニ因リ獲  
得シタル利益並ニ相續贈與若クハ遺囑ニ因リ獲得シタル財  
産ノ所有權ヲ有ス

父ハ相續贈與若クハ遺囑ヲ受諾ヨリ二个月内ニ其財産ノ目  
録ヲ作ル可シ若シ之ヲ作ラサルキハ其箇數及ヒ價額ハ世評  
ヲ以テスルモ之ヲ證スルヲ得

可  
生

第二百五十條 父子ノ利益相反スルキ若クハ同父ノ權ニ服從  
スル數子ノ利益相反スルキハ其住所ノ地方裁判所ハ其子ノ  
爲メ臨時保管人ヲ命ス可シ(伊第二百二十四條第三項第四項)  
第二百五十一條 父ハ其管理ノ止息シタルキハ所有權并ニ所  
得ノ計算ヲ爲ス可シ但シ子ノ養成及ヒ教育ノ入費ヲ支出ノ  
部ニ算入スルキヲ得(佛第三百八十九條第二項)

此計算ニ付テハ地方裁判所ハ父ノ善意ト其常習トヲ斟酌シ  
テ苛細ナル證明ヲ要ム可カラス  
後見人ノ計算書差出ノ義務ニ關スル時効ハ之ヲ父ノ計算書  
差出ノ義務ニ適用ス

第二百五十二條 父其權限内ニ於テ爲シタル行爲ハ子損失ヲ  
原由トシテ其無効ヲ請求スルヲ得ス  
父法律ニ定ムル條件ヲ遵守セスシテ爲シタル行爲ハ當然無

月二日

第百四十四條  
第百四十五條  
第百四十六條  
第百四十七條  
第百四十八條  
第百四十九條  
第百五十條

効トス(伊第二百二十七條)

第二百五十三條 本節ノ規則ハ母其子ノ財産ヲ管理スル場合ニモ亦之ヲ適用ス  
然レモ母ハ常ニ其子ノ財産ノ管理ヲ辭避スルヲ得此場合ニ於テハ後見ヲ開始ス

第三節 親權ノ喪失

第二百五十四條 刑法第三百五十二條ニ依リ處刑ノ宣告ヲ受ケタル父若クハ母ハ其總テノ子ニ對シテ當然親權ヲ失フ

第二百五十五條 父若クハ母親權ヲ濫用スルキ若クハ其不行跡ヲ世上ニ著明ナルキハ地方裁判所ハ檢事ノ請求ニ依リ其失權ヲ宣告スルヲ得(伊第二百三十三條)

第二百五十六條 生存者再婚シテ其配偶者前二條ノ所爲ヲ犯スルト雖モ地方裁判所ハ生存者ニ對シテ失權ヲ宣告スルヲ

刑

ヲ得  
婚姻ノ無効若クハ離婚ノ裁判宣告アリタル後子ノ監護ニ任スル父若クハ母ノ再婚シタル場合ニモ亦前項ノ規則ヲ適用ス

第二百五十七條 親權ヲ失ヒタル父若クハ母ハ其子ノ婚姻若クハ縁組ヲ承諾シ并ニ其子ニ自治ヲ與フルノ權ヲ失フ

第二百五十八條 財産ノ管理ニ於テ父若クハ母重大ノ過失ヲ爲シ若クハ不正實ノ所爲アルキハ地方裁判所ハ檢事ノ請求ニ依リ保管人ヲ命シ之ニ管理ヲ委任スルヲ得(伊第二百三十三條)

父若クハ母ノ浪費又ハ家事衰替ニ因リ子ノ財産ニ危險ヲ來タスノ恐アルキ亦同シ

第二百五十九條 血族姻族其他何人ト雖モ本節ニ規定スル事

母の権利

實ヲ聞知シタルキハ之ヲ檢事ニ通知ス可シ  
子モ亦躬ラ之ヲ申告スルヲ得  
地方裁判所ハ會議局ニ於テ父母及ヒ子ノ陳述及ヒ檢事ノ意  
見ヲ聽キ裁判ス可シ

第二百六十條 法律上父母ニ屬スル權ヲ變更スル合意ハ無効  
トス但シ第二百六十八條ニ規定スルモノハ此限ニ在ラス

第四節 庶出子ノ父母ニ特別ナル規則

第二百六十一條 前三節ニ設定スル規則ハ下ノ特例ヲ除クノ  
外之ヲ庶出子ノ父母ニ適用ス

第二百六十二條 父母ノ中一方ノミニ對シ親子ノ分限確定シ  
タルキハ其分限ノ確定シタル者親權ヲ行フ

第二百六十三條 父母雙方ニ對シ親子ノ分限確定シタルキハ  
父親權ヲ行フ

母の権利  
父の権利  
子の権利

若シ父死去シ若クハ之ヲ行フヲ能ハサルキハ後見ヲ開始ス  
第二百六十四條 父母ノ中子ノ監護ニ任スル者ハ其子ヲ代表  
シ其財産ヲ管理ス

第二百六十五條 子ノ監護ニ任スル者他人ト婚姻ヲ爲シタル  
場合ニモ第二百五十六條第一項ノ規則ヲ適用スルヲ得

第九章 後見

總則

第二百六十六條 後見ハ未成年者ノ父若クハ母ナル生存者ノ  
死去ニ依リテ開始ス

父母共ニ存シ若クハ生存者アリト雖モ親權ヲ失ヒ又ハ之  
ヲ行フヲ能ハサルキ亦同シ(白第三百八十五條佛第三百九  
十條)

第二百六十七條 未成年者ノ人數ノ多少ヲ問ハス後見人ハ一

名タル可シ但シ正出席出ノ未成年者アルキハ庶出未成年者  
ノ爲メニ別ニ後見人ヲ置ク

若シ同一ノ後見ニ屬スル數人ノ未成年者ノ間ニ利益相反ス  
ルキハ其住所ノ地方裁判所ハ特別ノ保護ヲ要スル未成年  
者ニ臨時保管人ヲ付ス(白第三百八十七條伊第二百四十六  
條)

第二百六十八條 親權又ハ後見ニ屬スル未成年者ニ財産ヲ贈  
與シ又ハ贈遺スル者ハ其指名スル保管人ヲシテ其贈與又ハ  
贈遺スル財産ヲ管理セシム可キ條件ヲ付スルヲ得此管理  
ニ付保管人ハ後見人ニ均キ任務ヲ有ス  
未成年者ノ成年ニ達セサル間ニ此管理罷ムキハ地方裁判所  
其替(代)者ヲ命ス(白第三百八十八條伊第二百四十七條)  
第二百六十九條 後見人ハ親族會ノ認免セサル限りハ後見ヲ

承諾セサル可カラス若シ後見人之ヲ承諾セス又ハ其任務ノ  
執行ヲ怠ルキハ關係人及ヒ檢事ノ請求ニ依リ裁判所ハ後見  
ノ管理者ヲ命スルヲ得  
後見人ハ此管理ノ費用ヲ負擔シ且ツ其管理者ノ管理ノ責ニ  
任ス(蘭第三百八十七條白第三百八十九條)

第一節 後見人

第二百七十條 父母ノ中生存シテ親權ヲ行フ者ハ其生前ニ血  
族姻族若クハ他人ノ中ニテ後見人ヲ指定スル權ヲ有ス(白  
第三百九十條佛第三百九十七條伊第二百四十二條)  
第二百七十一條 前條後見人ノ指定ハ遺囑書又ハ公正證書ヲ  
以テシ若クハ區裁判所判事及ヒ其書記ノ面前ニ於テスル申  
述ヲ以テスルヲ要ス(白第三百九十一條佛第三百九十八條  
及ヒ第三百九十二條伊第二百四十二條)

第二百七十二條 父若クハ母後見人ヲ指定セサリレキハ當然  
父系ノ祖父ヲ以テ後見人ト爲シ父系ノ祖父之ヲ辭避シ又ハ  
既ニ死去セシキハ母系ノ祖父ヲ以テ後見人トス(伊第二百四  
十四條白第三百九十二條佛第四百二條及ヒ第四百四條)  
第二百七十三條 未成年ナル子父若クハ母ノ指定スル後見人  
モ父系若クハ母系ノ祖父ナル後見人モ有セサルキ又此後見  
人認免又ハ斥除セラレ若クハ死去スルキハ親族會後見人  
ヲ撰定ス(白第三百九十三條佛第四百五條伊第二百四十五  
條)  
第二百七十四條 身分取扱人ハ未成年者ヲ遺セシ人ノ死去シ  
タル申述ヲ聽受シ又ハ未成年者ヲ有スル父若クハ母ノ婚姻  
キ爲シ他家ニ入りタルヲ知リタルキハ直ニ未成年者ノ  
住所ノ區裁判所判事ニ之ヲ通知セサル可カラス

月六日  
午後  
...

未成年者ノ親族ハ親族會ノ招集ヲ請求スルヲ得  
何人ヲ問ハス後見人ヲ設定ス可キ事實ハ之ヲ區裁判所判事  
ニ通告スルヲ得(白第三百九十四條佛第四百六條伊第二百  
五十條)  
第二百七十五條 親子ノ分限確定セサル未成年者アルキハ檢  
事ノ請求ニ依リ其地ノ地方裁判所後見人ヲ指定ス  
父母共ニ知レサル子ノ出生シタル申述ヲ受クル身分取扱人  
ハ之ヲ其地ノ地方裁判所ノ檢事局ニ通知セサル可カラス(白  
第三百九十六條)  
第二百七十六條 父母雙方若クハ父ノミニ對シ親子ノ分限確  
定セル庶出未成年者ノ父死去スルキハ後見ハ遺託後見人ニ  
屬シ之ヲ欠クキハ父系ノ祖父ニ屬シ又之ヲ欠クキハ親族會  
後見人ヲ撰定ス

母ノミニ對シ親子ノ分限確定セル庶出未成年者アリテ其母  
死去スルキハ後見人ノ設定ハ前項ノ例ニ從フ

第二百七十七條 育兒院ニ在ル未成年者ノ後見ハ特別法ヲ以  
テ之ヲ規定ス

第二節 副後見人

第二百七十八條 後見ニハ一名ノ副後見人ヲ付スルヲ要ス  
此副後見人ハ親族會之ヲ撰定ス(白第三百九十五條佛第四百  
二十條伊第二百六十條)

第二百七十九條 遺託後見人及ヒ尊屬後見人ハ後見ノ事務ヲ  
執ル前ニ副後見人撰定ノ爲メ親族會ヲ招集セシメサル可カ  
ラス若シ後見人カ副後見人ノ撰定前其事務ニ干涉シ詐欺ノ  
所爲アリタルキハ親族會ハ後見人ノ任務ヲ解クヲ得(白第  
三百九十九條佛第四百二十一條)

第二百八十條 親族會後見人ヲ撰定スルキハ副後見人ハ同時  
ニ之ヲ撰定スルヲ要ス

副後見人ハ後見人ノ屬セサル親族若クハ他人ノ中ニ就キテ  
之ヲ撰定ス但シ庶出子ノ副後見人ニハ必ス他人ヲ撰定ス可  
シ  
未成年者ノ同父母兄弟ハ其一人ヲ後見人ト爲シ他ノ一人ヲ  
副後見人ト爲スモ妨ケナシ

(白第四百條佛第四百二十二條及ヒ第四百二十三條)

第二百八十一條 後見人ヲ改定スル場合ニ於テハ副後見人ノ  
任務ハ罷ム然レモ其副後見人ハ再撰セラル、ヲ得(白第四  
百一條佛第四百二十五條)

第二百八十二條 本章第四節及ヒ第五節ノ條例ハ之ヲ副後見  
人ニ適用ス(白第四百二條佛第四百二十六條)



第三節 親族會

第二百八十三條 親族會ハ區裁判所判事及ヒ未成年者ノ最近

親族四名ヲ以テ組成ス

區裁判所判事ヲ以テ親族會ノ會長トス(白第四百三條佛第四

百七條)

第二百八十四條 未成年者ノ尊屬親同父母兄弟伯叔父ハ其順

序ヲ逐フテ權利上親族會員ト爲ル

若シ四名以上ノ尊屬親ヲ存スルハ最近親族ヲ以テシ兄弟

ノ間若クハ伯叔父ノ間ニ於テハ年長者ヲ以テス

此等ノ親族ヲ欠クハ區裁判所判事ハ未成年者ノ父系若ク

ハ母系ノ親族ノ中ニ就キテ未成年者トノ親等ノ關係及ヒ其

利益ヲ酌量シ親族會員ヲ撰定ス

親族ヲ欠クハ區裁判所判事ハ未成年者ノ父母ト親懇ナル

不  
存  
不  
存  
不  
存

ヲ以テ知ラレタル人ヲ撰ンテ會員ト爲ス(白第四百四條佛第

四百七條伊第二百五十二條)

第二百八十五條 後見人副後見人及ヒ臨時保管人ハ管理事務

ニ係ル説明ヲ與フル爲メ親族會ノ會議席ニ加列ス然レモ會

議ノ可否決ニ與ルヲ得ス(白第四百五條伊第二百五十一

條)

滿十六年ニ達セル未成年者モ亦其席ニ列スルヲ得

第二百八十六條 若シ親族會員タル人隔遠ノ地ニ住スルノ原

由其他正當ナル事由ノ爲メ會員タルヲ得サルハ區裁判

所判事ハ之ヲ認免シ第二百八十四條ノ規則ニ從ヒ其替代者

ヲ撰定ス

後見ノ繼續中ニ會員ノ任務罷ムキ其替代者ヲ撰定スルモ

第二百八十四條ノ規則ニ從フ(白第四百六條伊第二百五十

四條

第二百八十七條 親族會員タル者ハ親族ナルト朋友ナルトヲ問ハス躬ヲ會議ニ臨席スルヲ要ス

正當ノ事由ナクシテ會議ニ列セサル者ハ

ノ料ニ處ス此料ハ區裁判所判事之ヲ宣告ス

毎ニ欠席スル會員アルハ區裁判所判事ハ之ヲ罷免シ地方

裁判所ノ檢事ニ其旨ヲ通知シ裁判所ハ檢事ノ請求ニ依リ五

圓以上百圓以下ノ罰金ニ處スルヲ得

區裁判所判事其替代者ヲ撰定スルハ第二百八十四條ニ從フ

(白第四百七條佛第四百十二條及ヒ第四百十三條)

第二百八十八條 親子ノ分限確定セル庶出未成年者ノ親族會

ハ前數條ノ規則ニ從ヒ之ヲ組成ス但シ父子ノ分限確定セル

場合ニ於テハ父ノ姻族母及ヒ母系ノ血族ハ會員タルヲ得

ス

親子ノ分限確定セサル未成年者アルハ區裁判所判事ハ管

内ニ於テ市町村會議員タル資格ヲ有スル者ノ中ニ就キテ親

族會員ヲ撰定ス(白第四百八條伊第二百六十一條)

第二百八十九條 未成年ナル養子ノ親族會員ニハ實家ノ親族

ヲ撰定スルヲ得

第二百九十條 親族會ハ後見開始ノ時ニ於テ未成年者ノ住所

ノ區裁判所判事前數條ノ規則ニ從ヒ之ヲ組成ス

此親族會ハ會員ノ死去認免若クハ罷黜ニ因リ替代スルノ外

常存ス

後見人若クハ會員ノ請求ニ依リ裁判所カ親族會ノ在所ヲ移

サ、ル限リハ未成年者ノ原住所ヲ以テ其在所トス(白第四百

九條伊第二百四十九條)

第二百九十一條

親族會會長  
區裁判所判事ハ職權ヲ以テ親族會ヲ招集シ

又ハ後見人、副後見人、保管人、親族會員、關係人若クハ檢事ノ議  
求ニ依リ之ヲ招集ス

招集ハ豫メ會議ノ目的ヲ知ラシムルヲ要ス(白第四百十條  
佛第四百六條伊第二百五十七條)

第二百九十二條

親族會集會ノ期日ハ區裁判所判事之ヲ定メ  
若シ會員盡ク一市町村内ニ住シ又ハ三里以内ニ住スルキハ  
集會ノ當日ト集會通達ノ日トニ少クトモ三日ノ期間ヲ存ス  
ルヲ要ス若シ此里程外ニ住スル會員アルキハ八里毎ニ一  
日ヲ加フ可シ八里ニ滿タサルモノト雖モ三里以上ナルキ亦  
同シ(佛第四百十一條白第四百十一條)

第二百九十三條

參集セサル親族會員ヲ待ツノ必要アルキ又  
ハ其(替代)者ヲ指定スルヲ要スルキハ區裁判所判事ハ集會

ヲ延期スルヲ得

未成年者ノ利益カ延會ヲ要スルキ亦同シ(白第四百十二條佛

第四百十四條)

第二百九十四條

親族會集會ハ區裁判所判事ノ宅ニ於テ之  
ヲ開ク但シ區裁判所判事他ノ場所ヲ指定スルハ此限ニ在ラ

第二百九十五條

親族會ノ會議ヲ爲スニハ總テノ會員ヲ招集  
シ區裁判所判事ノ外少クトモ三名以上ノ會員ノ臨席ヲ要ス  
會議ハ過半數ヲ以テ之ヲ決シ同數ナルキハ區裁判所判事之  
ヲ決ス(白第四百十四條佛第四百十五條及ヒ第四百十六條伊  
第二百五十八條)

第二百九十六條

親族會員ハ自己ノ利益ノ關係スル會議ニ列  
スルヲ得ス(伊第二百五十九條第一項白第四百十五條第一

項)

第二百九十七條 親族會ノ決議全會一致セサルハ各會員ノ意見ハ其理由ト共ニ會議録ニ之ヲ登載ス可シ(佛第四百十六條伊第二百六十條佛訴第八百八十三條)

第二百九十八條 後見人、副後見人、保管人、檢事及ヒ決議ニ同意セサル親族會員區裁判所判事ハ親族會ノ爲シタル決議ノ本案ヲ訟撃スルヲ得(白第四百十七條佛訴第八百八十三條第二項)

第二百九十九條 親族會ノ決議ハ左ノ場合ニ於テハ不成立ト

ス

一 區裁判所判事欠席シ若クハ關係セスシテ會議ヲ爲シタルハ

二 總會員ヲ招集セザリシハ

三 會議ノ際區裁判所判事ノ外會員二名以上ナラザリシハ  
四 會議カ第二百九十五條ニ定ムル多數ニ依リ決セラレザリシハ(白第四百十八條)

第三百條 前條ノ場合ヲ除キ他ノ違法ノ所爲アリテ未成年者ノ利益ヲ害スルハ其決議ヲ無効ト爲スヲ得(白第四百十九條)

第三百一條 第三者ハ自己ノ權利ヲ害スル決議ヲ訟撃スルヲ得

然レモ法式違背ニ關スル第三者ノ訟撃ハ第二百九十九條ニ違フハニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス  
未成年者ノ利益ノ爲メニ設ケタル其他ノ法式ニ關シテハ第三者ハ其利益カ未成年者ノ利益ト混同スルハニ非サレハ其法式ノ違背ヲ申立ルヲ得ス(白第四百二十條)

第三百二條

如何ナル場合ト雖モ親族會ヲ招集スル必要アル  
キハ總テ本節ノ規則ニ從フ

第四節 後見ノ認免

第三百三條 左ニ掲クル者ハ後見人タルヲ認免ス

一 現役ニ服スル軍人軍屬

二 後見ヲ設定スル府縣ノ外ニ於テ官ノ職務ニ從事スル人

三 公務ヲ帶ヒテ外國ニ在ル人(白第四百二十一條佛第四百

二十七條及ヒ第四百十八條伊第二百七十二條)

第三百四條 前條ニ掲クル人其職務ヲ有スルニ拘ラス後見ヲ

承諾セルキハ此理由ニ依リ更ニ認免セラル、ヲ無シ

其職務ノ終ニ當リ現任後見人其解任ヲ請求シ又ハ後見ノ認

免ヲ得タル人就任ヲ請求スルキハ親族會ハ此請求ヲ認許ス

ルヲ得(白第四百二十二條佛第四百三十條及ヒ第四百三十

一條)

第三百五條 未成年者ノ親族ニ非サル者ハ後見ヲ設定スル地

ノ地方裁判所管内ニシテ五里以内ニ後見ニ適スル親族アル

キハ後見ヲ承諾セサルヲ得

若シ親族タル者後見ヲ認免セラレタル理由罷ムキハ親族ニ

非サル後見人ハ其後見ノ解任ヲ請求スルヲ得(白第四百二

十三條佛第四百三十二條)

第三百六條 後見人ハ其認免若クハ解任ヲ得ル爲メニ法律ニ

掲ケサル理由ヲモ申立ルヲ得(白第四百二十四條佛第四百

三十三條以下)

第三百七條 認免及ヒ解任ハ總テ親族會ノ會議ニ付ス

認免及ヒ解任ノ請求ヲ拒却セラレタル人ハ地方裁判所ニ抗

告スルヲ得但シ其裁判宣告マテハ後見ノ任務ヲ執行セサ

ル可カラス(白第四百二十五條佛第四百三十八條伊第二百七十五條)

第三百八條 後見人解任ヲ請求スルキハ親族會ハ何時ニテモ未成年者ノ利益ノ爲メニ之ヲ許スヲ得若シ全會一致ニテ之ヲ決定セサリシキハ裁判所ノ認可ニ付スルヲ要ス(白第四百二十六條伊第二百七十六條)

第五節 後見人及ヒ親族會員ノ欠格(斥除)及ヒ罷黜

第三百九條 左ニ掲クル者ハ後見人タルヲ得ス又親族會員タルヲ得ス

- 一 未成年者
- 二 民事上禁治産者及ヒ准禁治産者
- 三 婦女但シ未成年者ノ尊屬親ヲ除ク
- 四 未成年者ノ身分若クハ財産ノ主要ナル部分ニ關シテ訴

抄。

認テ爲ス人及ヒ其尊屬親、卑屬親、配偶者

若シ此等ノ欠格者カ後見事務ヲ管理スルキハ親族會ノ決議ニ依リ之ヲ抛棄セシム(白第四百二十七條佛第四百四十二條伊第二百六十八條)

第三百十條 左項ニ掲クル者ハ後見及ヒ親族會ヨリ斥除セラ

ル可シ現ニ任務ニ從事スル者ハ之ヲ罷黜ス

- 一 太甚シキ不行跡ナル者
- 二 後見人ニシテ其管理ニ不能力若クハ不正實ヲ彰示スル者

三 裁判所ニ於テ子ノ財産ノ管理ヲ止メラレタル者

四 不能力不行跡若クハ不正實ノ原由ニ依リ後見ヲ解任、斥

除、罷黜セラレ若クハ親權ヲ喪失シタル者

五 任務ヲ免セラレタル裁判上ノ保管人

六 剝奪公權、停止公權及ヒ刑事上禁治産ノ宣告ヲ受ケタル者(白第四百二十八條佛第四百四十三條第四百四十四條第四百四十五條伊第二百六十九條)

七 復權ヲ得サル破産者

第三百十一條 後見人ヲ斥除若クハ罷黜ス可キハ副後見人ノ請求ニ依リ又ハ區裁判所判事ノ職權ヲ以テ招集スル親族會ニ於テ之ヲ爲ス

未成年者ノ親族ニシテ從兄弟以内ノ親等ノ者此招集ヲ請求スルハ區裁判所判事ハ之ヲ爲サ、ル可カラス(白第四百二十九條佛第四百四十六條伊第二百七十一條)

第三百十二條 後見人ノ斥除若クハ罷黜ニ關スル親族會ノ決議ハ其理由ヲ付ス可シ但シ此決議ハ後見人ノ陳述ヲ聽キ又其召喚ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス(白第四百

三十條佛第四百四十七條伊第二百七十一條)

第三百十三條 若シ後見人會議ノ決議ヲ承認スルハ之ヲ會議録ニ載セ後任ノ後見人直ニ其任務ニ從事ス

若シ後見人決議ヲ承認セサルハ副後見人ハ地方裁判所ニ其決議ノ認可ヲ請求シ裁判所ハ後見人ノ陳述ヲ聽キ裁判ス此裁判ニ對シテハ抗告スルヲ得

斥除若クハ罷黜セラレタル後見人ハ其任務ヲ保有スル爲メ副後見人ニ對シテ起訴スルヲ得

第三百十一條第二項ニ從ヒ親族會ノ招集ヲ請求セル親族ハ其訴訟ニ參加スルヲ得

此訴訟ハ要急事件トシテ審理シ裁判スルヲ要ス(白第四百三十一條第四百三十二條佛第四百四十九條)

第六節 後見人ノ管理

第三百十四條 遺託後見人及ヒ尊屬後見人後見ノ開始ヲ知ル  
キハ直ニ其任務ニ就クヲ要ス若シ其場所ニ在ラサルハ  
何人ニテモ此開始ヲ區裁判所判事ニ通知シ區裁判所判事  
之ヲ後見人ニ通知ス

親族會ニ於テ後見人ヲ撰定シ其後見人列席スルハ直ニ  
任務ニ就キ若シ列席セサルハ區裁判所判事ノ之ヲ通知セ  
ル當日ヨリ其任務ニ就クヲ要ス(白第四百三十三條佛第四  
百十八條)

第三百十五條 後見人ハ懇切ニ未成年者ヲ待遇シ未成年者ハ  
後見人ニ對シ恭順ナラサル可カラス(白第四百三十四條伊第  
二百八十條)

第三百十六條 後見人ハ未成年者ヲ監護シ其教育ヲ擔任ス若  
シ在來ノ住居若クハ教育方法ヲ變更セントスルハ親族會

ニ協議セサル可カラス協議諸ハサルハ地方裁判所ニ申立  
テ裁判所ハ未成年者滿十二年以上ナルハ其意見ヲ聽キ之  
ヲ裁判ス

副後見人及ヒ親族會員ハ未成年者ノ住居若クハ教育ニ付意  
見アルハ何時ニテモ親族會ノ招集ヲ請求スルヲ得(白第  
四百三十四條伊第二百七十八條)

第三百十七條 後見人ハ第二百四十三條ニ從ヒ未成年者ヲ懲  
戒スル權ヲ有ス

未成年者ノ行狀ニ付重大ナル不滿アルハ後見人ハ親族會  
ニ之ヲ通知シ其允許ヲ得タル上第二百四十四條ニ從ヒ未成  
年者ヲ處分スルヲ得

若シ後見人其權ヲ妄用シ若クハ其義務ヲ怠ルハ未成年者  
其他總テノ親族ハ親族會ニ之ヲ申告スルヲ得(白第四百三



未定

十五條佛第四百六十八條伊第二百七十九條第二百八十條

第三百十八條 後見人ハ一切ノ權利行爲ニ於テ未成年者ヲ代表シ善良ノ管理者ノ如ク其財産ヲ管理シ管理ノ不良ヨリ生  
スル損害賠償ノ責任ニ任ヌ(白第四百三十六條佛第四百五十條  
伊第二百七十七條)

第三百十九條 後見人ハ當然其任務ニ就クヘキ日ヨリ起算シ  
テ十日内ニ未成年者ノ財産ニ係ル封印ノ開放ヲ請求シ副後  
見人ノ立會ニ於テ直ニニ財産ノ調査ニ從事セサル可カラス  
財産目錄ノ調製ハ一个月内ニ之ヲ終ラサル可カラス區裁判  
所判事ハ事宜ニ依リ延期ヲ許スヲ得  
遺囑ヲ以テ目錄調製ヲ釋免セルルハ此釋免ハ不成立ト看做  
サル可シ(白第四百三十七條佛第四百五十一條伊第二百八十  
一條第二百八十二條及ヒ第二百八十三條)

第三百二十條 若シ後見人カ未成年者ノ債務者或ハ債權者ナ

ルルハ目錄ノ調製前之ヲ公證人ニ明言セサル可カラス  
後見人其債權ノ存在ヲ知リテ之ヲ明言セサリシキハ其債權  
ヲ喪失ス若シ債務ノ存在ヲ知リテ之ヲ明言セサリシキハ其  
後見ヲ罷黜スルヲ得此終ノ場合ニ於テハ地方裁判所ハ後  
見人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處スルヲ得(白第四百三  
十八條佛第四百五十一條伊第二百八十五條第二百八十六  
條)

第三百二十一條 適法ノ期限内ニ正確ナル目錄ヲ調製セサリ  
シ後見人ハ其任務ヲ罷黜セララルヘシ此場合ニ於テハ前條ノ  
罰則ヲ適用ス  
正確ナル目錄ヲ調製セサリシ動産ノ箇數及ヒ價直ハ世評ヲ  
以テモ之ヲ定ムルヲ得(白第四百三十九條伊第二百八十八

條)

第三百二十二條 財産目錄ノ調製ヲ終ラサル間ハ後見人ハ要  
急欠ク可カラサル管理行爲ノミヲ爲スヲ得(白第四百四十  
條伊第二百八十九條)

第三百二十三條 後見人ハ目錄調製ヲ終リタル後親族會カ保  
存ニ及ハスト認ムル有形動産ヲ一个月内ニ副後見人ノ立會  
ニテ贖買ニ付ス

親族會ハ其動産ノ示談賣却ヲ後見人ニ許スヲ得(白第四百  
四十一條佛第四百五十二條伊第二百九十條蘭第四百四十七條)  
第三百二十四條 後見任務ノ執行ノ始ニ於テ親族會ハ未成年  
者ニ與フヘキ教育ノ程度ト其資産トニ從ヒ毎年費スヘキ金  
額及ヒ財産管理ニ係ル費用ヲ規定ス  
親族會ハ相當ノ給料ヲ與フル一名若クハ數名ノ管理者ヲ後

見人カ自己ノ責任ヲ以テ用ユルヲ許スヲ得(佛第四百五十  
四條白第四百四十二條伊第二百九十一條及第二百九十五條)  
第三百二十五條 後見人ハ未成年者ノ資本及ヒ收入ノ剩額ヲ  
其都度貯金預所ニ預ケ置ク可シ其預ケサリシ金額ニ付テハ  
法律上ノ利息ヲ辨濟ス可シ

後見人未成年者ノ資産ニ付他ノ利用法ヲ爲サントスルキハ  
親族會ノ允許ヲ必要トス

後見人未成年者ノ財産ヲ自己ノ用ニ供セシキハ當然其利息  
及ヒ其利息ノ利息ヲ辨濟セサル可カラス(白第四百四十三條  
佛第四百五十五條伊第二百九十一條)

第三百二十六條 尊屬後見人ヲ除クノ外後見人ハ親族會ノ指  
定スル時期ニ一个年内ノ管理ノ狀況ヲ親族會ニ報告セサル  
可カラス親族會ハ會員一名ニ命シ之ヲ調査セシメ決議ノ上

區裁判所書記局ニ其狀況書ヲ差出シ置ク可シ(白第四百四十條佛第四百七十條伊第三百三條)

第三百二十七條 後見人ハ財産管理ノ權ヲ有スルニ止リ此權外ノ行爲ハ法律ニ定ムル條件ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス

後見人ハ管理ノ爲メ其權内ニ於テ債務ヲ約スルヲ得(白第四百四十五條)

第三百二十八條 親族會ハ法律ニ規定セル後見人ノ權限ヲ變更スルヲ得ス(白第四百四十六條)

第三百二十九條 左ニ掲クル行爲ニ關シテハ後見人ハ親族會ノ允許ヲ得サル可カラス

一 未成年者ノ資本ヲ領受シ之ヲ利用スルヲ  
二 動產不動產ヲ獲得スルヲ但シ未成年者ノ日用ノ爲メ及

其財産ノ管理ノ爲メ獲得スルハ此限ニ在ラス

三 新築改築増築若クハ大修繕ヲ爲ス

四 第六百二十六條ニ定ムル時期ヲ超過スル賃貸ヲ爲ス

五 相續贈遺及ヒ贈與ヲ受諾スル

六 分派若クハ假分派ノ請求ヲ爲ス但シ分派訴權ヲ受ク

ルニ付テハ親族會ノ允許ヲ要セス(白第四百四十七條佛第一千七百十八條第四百六十一條及ヒ第四百六十三條第四百六十五條伊第二百九十六條)

第三百三十條 左ニ掲クル行爲ニ關シテハ後見人ハ親族會ノ允許及ヒ地裁裁判所ノ認可ヲ得サル可カラス

一 未成年者ノ動產不動產ヲ移付シ若クハ之ニ物上權ヲ負  
トシムルヲ但シ收買ヲ時價ニテ賣却シ又ハ毀損スヘキ動  
產ヲ賣却スルハ此限ニ在ラス

二 借財ヲ爲ス

三 相續贈遺若クハ贈與ヲ拒却スル

四 未成年者ノ動産不動産ノ權限ニ係ル訴權ヲ行フ

テ拋棄スルヲ訴權ニ抗辯スルヲ又此權利ニ關シ請求ニ承服スルヲ和解ヲ爲ス

佛第四百五十七條第四百六十一條第四百六十四條及ヒ第

四百六十七條伊第二百九十六條第三百一條

第三百三十一條 親族會ノ允許ハ各行爲ニ對シテ特別ナラサ

ル可カラス

財産ノ移付物上權ノ設定借財ハ必要ノ原由若クハ明確ノ利

益ノ存スルニ非サレハ之ニ允許ヲ與フ可カラス

親族會ハ賣却スヘキ財産及ヒ其賣却ニ係ル條件ヲ定ムル

ヲ要ス其賣却ハ訴訟法ニ定ムル條例ニ從フ但シ親族會ハ示

談賣却ヲ允許スルヲ得(白第四百四十九條佛第四百五十七條伊第二百九十七條)

第三百三十二條 親族會ノ決議ニ付認可ノ請求アリタルキハ

地方裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ會議局ニ於テ之ヲ決定ス

裁判所ハ未成年者ノ利益ニ必要ト認定スルキハ親族會ノ決

議ヲ改修スルヲ得(白第四百五十條佛第四百五十八條)

第三百三十三條 未成年者ニ未分ニテ屬スル財産ノ賣却ハ

賣ニ依ル其手續ハ民事訴訟法ニ定ムル條例ニ從フ(白第四百

五十一條佛第四百六十條)

第三百三十四條 後見人ハ未成年者ノ財産ヲ買得スルヲ得

ス又未成年者ニ反對シテ權利ノ讓受人タルヲ得ス(白第四

百五十二條佛第四百五十條伊第三百條)

第三百三十五條 後見人ハ親族會ノ允許及ヒ地方裁判所ノ認

可ヲ得ルニ非サレハ未成年者ノ家屋土地ヲ賃借スルヲ得  
ス(白第四百五十三條佛第四百五十條伊第三百條)

第三百三十六條 後見人其權内ニ於テ爲シタル行爲ハ未成年  
者ヲ羈絆ス

後見人適法ノ手續ヲ爲サスシテ爲レタル行爲ハ當然無効ト  
ス(白第四百五十四條)

全名條則

第七節 副後見人ノ任務

第三百三十七條 副後見人ハ後見人ノ管理ヲ監視スルノ任ヲ  
有ス

副後見人ハ後見人ヲ欠クキト雖モ後見任務ヲ行ハス此場合  
ニ於テハ直ニ後任ノ後見人撰定ノ手續ヲ爲サル可カラ  
ス此手續ヲ爲サルハ因テ生ヌル所ノ損害賠償ノ責ニ任  
ス(白第四百五十五條佛第四百二十四條)

第三百三十八條 未成年者ノ利益ト後見人ノ利益ト相反スル

場合ニ於テハ副後見人ハ未成年者ヲ代表ス此場合ニ於テハ  
臨時副後見人ヲ撰定ス(白第四百五十六條佛第四百二十條伊  
第二百六十六條第二項)

第三百三十九條 如何ナル場合ニ於テモ副後見人ハ保存行爲  
ヲ爲スヲ得(白第四百五十七條)

第三百四十條 法律上副後見人ノ立會フヘキ行爲ニシテ其立  
會無クシテ爲シタルモノハ無効トス(白第四百五十八條)

第八節 後見ノ了終

第三百四十一條 後見ハ一身ノ任務ニシテ後見人ノ相續人ニ  
轉移スルモノニ非ス

相續人ハ後見人ノ爲シタル管理ニ付責任ヲ有ス若シ相續人  
成年者ナルキハ後任後見人ノ任務ニ就クマテ管理ヲ繼續セ

サル可カラス(白第四百五十九條佛第四百十九條)

第三百四十二條 罷黜、認免若クハ解任セラレタル後見人ハ其後任者ノ任務ニ就クマテ仍ホ後見ニ係ル管理ヲ負擔ス(白第四百六十條)

第三百四十三條 未成年者カ成年ニ達シ若クハ自治ニ至ルニ依リ後見罷ムルハ後見人ハ其計算ヲ終ルマテ其管理ヲ繼續ス(白第四百六十一條)

第三百四十四條 假リニ後見ノ管理ヲ爲ス者ハ必要ナルカ若クハ明瞭ニ有益ナル行爲ノミヲ爲スヲ得(白第四百六十二條)

#### 第九節 後見ノ計算

第三百四十五條 後見人ハ其管理ノ了終スルルニ管理ノ計算ヲ爲サル可カラス

贈與者ノ爲ス管理計算ノ釋免ハ不成立ト看做サル可シ(白第四百六十三條佛第四百六十九條伊第三百二條及ヒ第三百四條)

第三百四十六條 後見ノ決算ハ副後見人ノ立會ニテ未成年者ノ成年ニ達シタル者又ハ自治ニ至リタル未成年者ニ對シテ之ヲ爲ス

後見カ若シ後見人ノ身ニ係リ了終スルルハ決算ハ後任後見人ニ對シテ之ヲ爲シ親族會ノ認許ニ付ス

後見カ若シ未成年者ノ死去ニ依リテ了終スルルハ決算ハ其相續人ニ對シテ之ヲ爲ス

後見ノ決算ニ係ル費用ハ未成年者ノ擔任ニ屬ス後見人ハ其立替拂ヲ爲ス可シ(白第四百六十四條佛第四百七十一條伊第三百五條第三百六條第三百七條)

第三百四十七條 後見ノ決算ハ管理(了終)ノ日ヨリ起算シ三個月内ニ之ヲ爲サ、ル可カラス  
地方裁判所ハ當事者ノ請求ニ依リ其延期ヲ許スヲ得(白第四百六十五條)

第三百四十八條 後見人ト未成年者ノ成年ニ達セル者トノ合意ハ如何ナルモノタルヲ問ハス後見ノ決算ヲ爲シ親族會其決算ヲ查認シタル後ニ爲シタルモノニ非サレハ無効トス(白第四百六十六條佛第四百七十二條伊第三百七條末項)

第三百四十九條 後見ノ費用ハ豫算ノ定額ヲ超ユルト雖モ後見人其有益タルヲ證明シタルキハ之ヲ後見人ニ辨償ス可シ(白第四百六十七條佛第四百七十一條伊第三百五條末項)  
第三百五十條 後見人ノ未成年者ニ返濟スヘキ金額ニテ未返濟セサルモノハ決算完結ノ日ヨリ當然利息ヲ生ス

未成年者ノ後見人ニ返濟スヘキ金額ハ決算完結ノ後後見人ノ催告ニ因リ利息ヲ生ス(白第四百六十八條佛第四百七十四條伊第三百八條)

第三百五十一條 後見管理ノ計算ニ係ル未成年者ノ訴權ハ十年ノ時効ヲ以テ消滅ス後見人其他後見管理ヲ爲シタル人ノ未成年者ニ對スル訴權モ亦同シ  
未成年者ト副後見人若クハ親族會員トノ間ニ於テ後見ニ係ル訴權ニ關シテモ亦前項ヲ適用ス  
此期限ハ未成年者ノ成年ニ達シ若クハ死去シタル日ヨリ起算ス第三百四十八條ノ場合ニ於テ管理ノ計算ニ係ル訴權ニ付テハ契約無効ノ裁判宣告ノ日ヨリ之ヲ起算ス(白第四百六十九條佛第四百七十五條伊第三百九條)

第三百五十二條 後見人、副後見人、親族會員其他後見管理ヲ爲

シタル者ハ代理契約ノ原則ニ從ヒ其過失ノ責ニ任ス(白第四百七十條)

第十章 未成年者ノ自治

第三百五十三條 未成年者ハ其婚姻ニ依リ直テニ自治ノ權ヲ有ス(白第四百七十一條佛第四百七十六條伊第三百十條)

第三百五十四條 親權ヲ行フ父若クハ母ハ滿十五年ニ達セル未成年ノ子ニ自治ヲ許スヲ得

此自治ハ身分取扱人ニ爲シタル申述ニ依リ成立ス(白第四百七十二條佛第四百七十七條伊第三百十一條)

第三百五十五條 父母ヲ有セサル未成年者滿十八年ニ達スルキハ親族會ハ未成年者ニ自治ヲ許スヲ得

此場合ニ於テハ自治ハ親族會ノ決議ヨリ生ス(白第四百十三條佛第四百七十八條伊第三百十一條)

百七十條

第三百五十六條 若シ後見人カ未成年者ニ自治ヲ許スノ發議

ヲ爲サ、ルキハ區裁判所判事ハ職權ヲ以テ親族會ヲ招集シ之ヲ議セシムルヲ得

親族ノ請求アルキハ區裁判所判事ハ此招集ヲ爲サ、ル可カラス(白第四百七十四條佛第四百七十九條)

第三百五十七條 自治ノ未成年者ハ之ヲ保管ニ付ス

親權ヲ行ヒタル父若クハ母ハ當然其保管人トス  
父母ノ中生存シテ親權ヲ行フ者ハ生前第二百七十一條ニ從ヒ保管人ヲ指定スルヲ得

夫ハ當然未成年ナル婦ノ保管人トス  
其他ノ場合ニ於テハ親族會保管人ヲ撰定ス(白第四百七十五

條伊第三百十四條及三百十五條)  
第三百五十八條 後見人ニ關シテ定メタル認免欠格斥除罷黜



改正

ハ之ヲ保管人ニ適用ス(白第四百七十六條)

第三百五十九條 自治ノ未成年者ハ單獨ニテ純然ノ管理行爲

ノミヲ爲スヲ得(白第四百七十七條佛第四百八十一條伊第  
三百十七條)

第三百六十條 父ニシテ其子ノ財産ヲ管理シタル者ハ保管人

ノ立會ニテ其自治ノ子ニ管理ノ決算ヲ爲サ、ル可カラス

此場合ニ於テ親族會ハ臨時保管人ヲ撰定ス(白第四百七十八  
條佛第四百八十條)

第三百六十一條 自治ノ未成年者ハ其保管人ノ立會アルニ非

サレハ資本若クハ所得ヲ領受スルヲ得ス

保管人ハ自治ノ未成年者カ其日用ニ供セサル金額ヲ貯金預  
所ニ預クルヲ監視ス

金額ノ其他ノ利用法ハ親族會ノ允許ヲ要ス(白第四百七十九

改正

條佛第四百八十二條伊第三百十八條)

第三百六十二條 第三百二十九條ニ掲クル行爲ハ自治ノ未成

年者其保管人ノ立會アルニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス(白第  
四百八十條伊第三百十九條佛第四百八十條第四百八十二條

第九百三十五條第八百四十條)

第三百六十三條 第三百三十條ニ掲クル行爲ハ自治ノ未成年

者親族會ノ允許、地方裁判所ノ認可及ヒ保管人ノ立會アルニ  
非サレハ之ヲ爲スヲ得ス

第三百三十一條及ヒ第三百三十二條ハ此場合ニモ亦之ヲ適  
用ス(白第四百八十一條伊第三百十九條佛第四百八十三條第

四百八十四條)

第三百六十四條 自治ノ未成年者カ保管人ノ立會ヲ要スル行  
爲ヲ其立會無クシテ爲シタルキハ其未成年者ハ損失ノ原由

ニ基キ契約ノ無効訴權ヲ有ス

法律ニ規定セル法式ニ依ラスシテ爲シタル行爲ニ付テハ自治ノ未成年者ハ損失ヲ證明セスシテ無効ヲ請求スルヲ得  
(白第四百八十二條佛第一千三百五條伊第三百二十二條)

第三百六十五條 保管人カ自治ノ未成年者ノ行爲ニ立會フヲ拒ムルハ其未成年者ハ親族會ヲシテ臨時保管人ヲ撰定セシムルヲ得(白第四百八十三條伊第三百二十條)

第三百六十六條 父母ヲ除クノ外保管人ハ後見人ト一般ニ其過失ノ責ニ任ス(白第四百八十四條)

第三百六十七條 自治ノ未成年者ハ其不行跡若クハ財産管理ノ不良ニ依リ自治者タルニ適セサルハ親族會ハ其自治ヲ止ムルヲ得

親權ヲ行ヒタル父母若シ父母ヲ欠クハ親族會員及ヒ保管

人ハ自治ノ廢止ヲ請求スルヲ得

自治廢止ノ當日ヨリ其未成年者ハ親權若クハ後見ニ屬シ成年ニ達スルマテ復タ自治ヲ許サル、ヲ得ス(白第四百八十五條佛第四百八十五條第四百八十六條伊第三百二十一條)

## 第十一章 禁治産

### 第一節 民事上禁治産

第三百六十八條 心神喪失ノ常況ニ在ル者ハ假令ヒ時々本心ニ復スルヲアルモ治産ヲ禁ヒタル可シ(白第四百八十七條佛

第四百八十九條伊第三百二十四條)

第三百六十九條 禁治産ハ血族配偶者及ヒ檢事之ヲ請求スルヲ得

禁治産ヲ請求スル權利ヲ有スル一人ノ申立ニ依リ宣告セル裁判ハ他ノ總テノ人ニ對シ既判ノ効ヲ有ス(白第四百八十八

條佛第四百九十一條伊第三百廿六條)

第三百七十條 禁治產者ハ之ヲ後見ニ付ス

配偶者ハ當然互相ニ後見人ト爲ル可シ若シ配偶者ヲ欠クハ禁治產者ノ父ヲ以テ後見人ト爲ス之ヲ欠クハ親權ヲ行フヲ得ヘキ母ヲ以テ後見人ト爲ス

法律上ノ後見人ハ第二百七十一條ノ法式ニ從ヒ後見人ヲ指定スルヲ得

若シ法律上ノ後見人及ヒ遺託後見人存セス又後見人認免斥除若クハ罷黜セラレタルキハ後見ノ章ニ定メタル法式ニ從

ヒ親族會ニ於テ後見人ヲ撰定ス(白第四百八十九條伊第三百三十條佛第五百五條第五百六條第五百七條)

第三百七十一條 配偶者、尊屬親、卑屬親ヲ除クノ外何人タリモ十个年以上禁治產者ノ後見ヲ擔任スルニ及ハス(白第四百九

條佛第五百八條伊第三百三十三條)

第三百七十二條 未成年者ノ後見ニ係ル規定ハ禁治產者ノ後見ニ適用ス

禁治產者ハ其財産ニ付未成年者ト同視セララルヘシ(佛第五百九條白第四百九十一條伊第三百二十九條)

第三百七十三條 禁治產者ノ所得ハ療治其他本人ノ保養ノ爲

メニ之ヲ用ユ可シ

其疾病ノ性質ト其資産ノ狀況トニ從ヒ自宅ニ於テ療養セシ

メ若クハ病院ニ入ラシムルハ親族會之ヲ決ス但シ瘋癲病院

ニ入ラシメ又ハ自宅ニ監置スル手續ハ特別法ヲ以テ之ヲ定

ム(白第四百九十二條佛第五百十條)

第三百七十四條 禁治產者ノ後見人ハ其住居ニ使用スル家具

ヲ賣却ス可カラス(白第四百九十三條伊第三百三十二條)

第三百七十五條 法律上ノ後見人ハ第三百二十六條ニ定ムル管理ノ狀況ヲ報告スルヲ要セス(白第四百九十四條伊第三百三十一條)

第三百七十六條 配偶者ナキ禁治産者ノ財産ヲ以テ其子孫ノ婚姻若クハ營業ノ爲メ資財ヲ與ヘントスルキハ親族會之ヲ決シ地方裁判所ノ認可ニ付ス可シ(白第四百九十五條伊第三百三十四條佛第五百十一條)

第三百七十七條 禁治産者ハ禁治産ノ裁判宣告ノ當日ヨリ無能力者トス

裁判宣告後ニ爲シタル禁治産者ノ行爲ハ當然無効トス後見人禁治産者其相續人及ヒ承權者ハ無効ヲ請求スルヲ得(白第四百九十六條佛第五百二條伊第三百三十五條)

第三百七十八條 禁治産ノ裁判宣告前ニ係ル行爲ト雖モ其行

爲ノ當時ニ於テ失心明確ナルキハ之ヲ無効ト爲スヲ得若シ禁治産者ト結約シタル者其失心ノ狀況ヲ知リタルキハ假令ヒ失心明確ナラスト雖モ契約ヲ無効ト爲スヲ得(白第四百九十七條佛第五百三條伊第三百三十六條)

第三百七十九條 禁治産ノ原由罷ミタルキハ本人其配偶者親族若クハ檢事ノ請求ニ依リ其禁ヲ解ク可シ

禁治産者ハ解禁ノ裁判宣告後ニ非サレハ其權利ヲ回復スルヲ得ス(白第四百九十八條佛第五百十二條伊第三百三十八條)

第二節 准禁治産

第三百八十條 心神耗弱者、聾啞者、生盲者及ヒ浪費者ハ之ヲ保管ニ付スルヲ得

保管人ハ配偶者三親等マテノ血族及ヒ尊屬タル姻族ノ請求

ニ依リ地方裁判所ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ指定ス(白第五百三條伊第三百三十九條佛第五百十三條)

第三百八十一條 第三百五十八條、第三百五十九條、第三百六十一條、第三百六十二條、第三百六十三條第一項、第三百六十五條及ヒ第三百六十六條ハ親族會ニ係ルモノヲ除クノ外之ヲ准禁治産ニ適用ス但シ第三百六十五條ニ於ケル臨時保管人ハ地方裁判所之ヲ指定ス

裁判所ハ狀況ニ從ヒ准禁治産者保管人ノ立會フニ非サレハ管理行爲ヲモ爲スヲ得スト裁判スルヲ得(白第五百四條伊第三百三十九條佛第五百十三條)

第三百八十二條 准禁治産ノ原由罷ミタルヤハ本人及ヒ第三百八十條第二項ニ掲クル者ノ請求ニ依リ其禁ヲ解ク可シ(白第五百五條佛第五百十四條伊第三百四十二條)

第三節 刑事上禁治産

第三百八十三條 刑事上禁治産ヲ受ケタル者ハ其財産ヲ管理スルヲ得ス又遺囑ヲ以テスルノ外ハ其財産ヲ處置スルヲ得ス

禁治産ノ効果ハ裁判確定ノ當日ヨリ生ス(白刑第二十二條) 第三百八十四條 刑事上禁治産者ニハ治産人ヲ付シ其財産ヲ治セシム此治産人ノ指定及ヒ治産ノ方法ハ民事上禁治産者ノ後見ニ係ル條例ヲ適用ス

第三百七十六條ノ場合ニ於テハ禁治産者ノ同意ヲ得ルヲ要ス(白刑第二十三條佛刑第二十九條)

第三百八十五條 禁治産者ノ所得ハ領收ノ都度貯金預所ニ預ケ刑期間ハ之ヲ禁治産者ニ與フルヲ得ス(白刑第二十四條佛刑第三十一條)

第三百八十六條 刑事上禁治産ノ效果ハ主刑ノ終ニ於テ罷ム  
附録 瘋癲者ノ假管理

第三百八十七條 禁治産ヲ受ケサル瘋癲者アルキハ配偶者親族及ヒ檢事ハ特別法ニ定ムル手續ニ從ヒ地方裁判所長ノ允許ヲ得テ之ヲ瘋癲病院ニ入レ若クハ自宅ニ監置スルヲ得此場合ニ於テハ裁判所ハ關係人及ヒ檢事ノ請求ニ依リ會議局ニ於テ直ニ假管理人ヲ指定ス(佛第千八百三十八年六月十三日瘋癲者ニ關スル法律第三十二條)

第三百八十八條 瘋癲病院ニ入り若クハ自宅ニ監置セラレタル者ハ其入院若クハ監置ノ間ハ其財産ヲ管理シ及ヒ處置スルヲ得ス(白第四百九十九條)

第三百八十九條 假管理人ハ一切ノ權利行爲ニ於テ瘋癲者ヲ代表シ禁治産者ノ後見人ト同視セララルヘシ但シ必要ナルカ

若クハ明瞭ニ有益ナル行爲ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス(白第五百條)

第三百九十條 瘋癲者入院若クハ監置中ニ爲シタル行爲ハ本人其承權者及ヒ假管理人ノ之ヲ訟撃スルヲ得

裁判所ハ瘋癲者入院若クハ監置中ニ行爲ヲ爲シタルノ證據アルキハ其行爲ヲ無効ト爲スヲ得但シ對手人ハ瘋癲者本心ニテ行爲ヲ爲シタルヲ證明スルキハ此限ニ在ラス(白第五百一條佛國法律第三十九條佛第千三百四條)

第三百九十一條 瘋癲者ノ無能力ハ裁判所假管理ヲ解クキニ罷ム

假管理ハ入院若クハ監置ヲ求メタル原由ノ罷ムキハ特別法ノ手續ニ從ヒ之ヲ解クヲ得(白第五百二條)

第十二章 戸主及ヒ家族

第三百九十二條 獨立シテ一家ヲ成ス者ヲ戸主ト爲シ其家内ニ在ル親族ヲ家族ト爲ス

戸主及ヒ家族ノ婦ハ其戸主ノ家族ト爲ス

第三百九十三條 家族ハ婦及ヒ未成年者ヲ除クノ外分家ヲ爲シ又ハ親屬ニ係ル廢絶家ヲ再興スルヲ得

第三百九十四條 他家ノ入夫若クハ婦ト爲リタル者婚姻無効若クハ離婚ノ場合ニ於テハ實家ニ復歸シ其家族ト爲ルモノ

トス實家已ニ廢絶シ又ハ之ニ復歸スルヲ欲セサルハ其廢絶家ヲ再興シ若クハ一家ヲ新立スルヲ得

第三百九十五條 父母ノ知レサル子ハ其認知ヲ受ケサル間ハ一家ヲ新立シタルモノト爲ス

第三百九十六條 第二百廿九條第一項ニ記載シタル養子ハ一家ヲ新立シタルモノトス

第三百九十七條 特例婚姻ノ場合ニ於テハ婚姻ノ繼續中其夫ヲ以テ戸主ト爲ス

第三百九十八條 戸主失踪ノ宣言ヲ受ケタル後其家督ノ占有ヲ得タル者ハ其占有中戸主ト爲ス

第三百九十九條 失踪ノ宣言ヲ受ケタル單身戸主ノ亡失若クハ最後音信ノ日ヨリ滿三十个年ニ至リ又ハ其齡滿百年ニ至

ルマテ家督相續ノ占有者無キハ當然絶家トス

第四百條 戸主死去ノ後家督相續ヲ爲ス者無キハ當然絶家トス

此場合ニ於テ其家族ハ各一家ヲ新立シタルモノト看做ス

主廢家シ若クハ國民分限喪失シタル場合ニ於テモ亦同シ

第四百一條 家督相續ニ因リ戸主ト爲リタル者ハ他家ノ入夫ト爲リ又ハ婦ト爲ルヲ得ス

心代り

第十三章 住所

第四百二條 何人ト雖モ私權ノ行用ニ關シテハ其生計ノ中心タル所ノ地ニ其住所ヲ有ス(佛第二百二條伊第十六條)

住所ニハ法定ノモノアリ又隨意ノモノアリ

第四百三條 家督相續ヲ爲シ戸主ト爲ル者ハ其前戸主ノ住所ヲ以テ其住所ト爲ス

家族ハ能力者タリト雖モ其戸主ノ住所ヲ以テ其住所ト爲ス

第四百四條 法定ノ住所ハ法律ノ之ヲ付與シタル原由ト共ニ止息ス

然レモ法定ノ住所止息シタル後反對ノ意ヲ申述セサル者ハ同處ニ住所ヲ定メタルモノト推測ス

第四百五條 戸主其生計ノ中心ヲ他處ニ定ムルノ意思ヲ以テ其居所ヲ移スルハ住所ノ變更ヲ生ス

現存の住所を移す人は其生計の中心を他處に定むる意思を以て

此意思ハ其居住セント欲スル地ノ身分取扱役所ニ爲シタル申述ヲ以テ其證トス

民事上禁治産ヲ受ケタル戸主ノ住所ハ後見人本條ノ規則ニ從ヒ之ヲ變更スルヲ得

第四百六條 家族タル者一家ヲ成スルハ其生計ノ中心ヲ定ムル地ノ身分取扱役所ニ其意見ヲ申述シテ其住所ヲ定ムルヲ得

外國人モ本條ノ規則ニ從ヒ其住所ヲ帝國內ニ定ムルヲ得

第四百七條 左ノ場合ニ於テハ居所ハ住所ニ代用ス  
一 一個人ノ住所全ク知レサル時

二 帝國ニ住所ヲ定メサル外國人ニ關スル時

第四百八條 何人ト雖モ或ル行爲又ハ事務ノ爲メ臨時住所ヲ撰定スルヲ得

但其( ) 定ムル( ) 臨時住所



又法律ハ或ル場合ニ於テ臨時住所ノ撰定ヲ命スルヲアリ(佛  
第一百十一條伊第十九條)

第四百九條 臨時住所ノ撰定ハ明瞭ナルヲ要シ合意ト同證  
書又ハ別證書ヲ以テ之ヲ爲スヲ得  
其撰定ハ其地ト人トヲ指シ若クハ單ニ其地ノミヲ指シテ之  
ヲ爲スヲ得

債務者ノ普通ノ住所ニモ亦其撰定ヲ爲スヲ得

第四百十條 臨時住處ノ撰定ハ債權者ノ利益ノ爲メニ爲シタ  
ル者ト推測シ普通ノ住所ヲ除斥セス但シ債務者ノ專一又ハ  
共同ノ利益ノ爲メニ之ヲ爲シタルヲノ證據アル中ハ此限ニ  
在ラス

#### 第十四章 失踪

##### 第一節 失踪ノ推測

第四百十一條 一個人其住所并ニ居所ヨリ亡失シ若クハ其音

信ヲ絶止シテ其生死ノ分明ナラサル中ハ之ヲ失踪者ト推測  
ス

失踪ノ推測ハ本人ノ住所ノ地方裁判所ニ之ヲ申訴シテ判決  
ヲ受ク可シ(佛第一百十二條伊第二十條第二十一條)

第四百十二條 失踪ノ推測ヲ受ケタル者總括代理人ヲ定メ置  
キタル中ハ其代理人ハ失踪ノ推測中本人ノ財産ヲ管理ス但  
シ裁判所ハ事宜ニ依リ其解任ヲ宣告シ若クハ其後任ヲ指定  
スルヲ得(佛第一百十二條、第一百二十二條伊第二十一條第二項)

第四百十三條 失踪ノ推測ヲ受ケタル者總括代理人ヲ定メ置  
カサリシ中ハ裁判所ハ現實ノ利益ヲ有スル關係人推測ノ相  
續人及ヒ檢事ノ請求ニ依リ其財産ノ管理人ヲ指定ス(佛第百  
十二條伊第二十一條蘭第五百十九條)此管理人ハ成ル可ク本

ハ方ハ以下  
ノスヤス初

81

人ヲ推測相續人ノ中ニ就キテ之ヲ指定スルヲ要ス然レモ  
現在ノ配偶者ハ當然共通財産及ヒ自己ノ特有財産ヲ管理ス  
(佛第二百二十四條)

第四百十四條 代理人若クハ管理人ハ專ニ管理ノ權限ノミヲ  
有ス其他ノ行爲ニ付テハ必要ノ場合ニ限り裁判所ノ允許ヲ  
得テ之ヲ爲スヲ得

代理人若クハ管理人ハ本人既得ノ利益ニ關係アル所ノ目錄  
調製、計算、分派及ヒ精算ニ於テ之ヲ代表ス(佛第一百三條伊第  
二十一條)

第四百十五條 裁判所ノ指定シタル管理人ハ檢事ノ立會ニテ  
公證人ヲシテ失踪者ノ動産及ヒ證書ノ目錄ヲ調製セシムル可  
シ又管理人ハ其不動産ノ狀況ヲ確定セシムル爲メ裁判所ニ  
鑑定人ノ指定ヲ請求スルヲ得其報告書ハ裁判所ノ認可ニ

公證人ヲシテ  
失踪者ノ動産  
及ヒ證書ノ目錄  
ヲ調製セシムル  
可シ又管理人ハ  
其不動産ノ狀況  
ヲ確定セシムル  
爲メ裁判所ニ  
鑑定人ノ指定  
ヲ請求スルヲ得

付スルヲ要ス此等手續ノ入費ハ本人ノ財産ヲ以テ支辨ス  
此規則ハ關係人推測相續人若クハ檢事ノ請求ニ依リ本人ノ  
定メ置キタル代理人ニモ之ヲ適用スルヲ得

第四百十六條 代理人若クハ管理人ハ裁判所ノ定メタル給料  
ヲ受ク其管理及ヒ財産返還ノ擔保トシテ保證人又ハ相當ノ  
抵保ヲ立ツルヲ要ス(蘭第五百二十二條)

第四百十七條 失踪ノ推測中ニ於テ現在ノ配偶者其共同子ノ  
婚姻若クハ營業ノ爲メ資財ヲ與フルヲハ夫婦財産契約ノ章  
ニ之ヲ規定ス

失踪者ノ前婚又ハ庶出ノ子ノ婚姻若クハ營業ノ爲メ資財ヲ  
與フルヲニ付テハ第三百七十六條ヲ適用ス

第四百十八條 檢事ハ特ニ失踪ノ推測ヲ受ケタル者ノ保護ニ  
任シ一般之ニ關係アル請求ニ付テハ其意見ヲ陳フルヲ要

ス(佛第四百十四條)

第二節 失踪ノ宣言

第四百十九條 失踪者代理人ヲ定メ置カサルキハ滿三~~三~~年又其代理人ヲ定メ置キタルキハ其任期ノ長短ヲ問ハス滿六~~六~~年ニ至ルモ其生死ノ音信ヲ得サルニ於テハ失踪者ノ死去ニ發起スル權利ヲ其財産上ニ有スル者ハ住所ノ地方裁判所ニ失踪ノ宣言ヲ請求スルヲ得(佛第一百五條第百二十一條伊第二十二條)

第四百二十條 此請求ノ允許スヘキモノナルキハ裁判所ハ其證據書類ニ拘ラス失踪者ノ住所及ヒ最後居所ノ地ニ於テ檢事ト對審ニテ證人訊問ヲ開クヲ命ス可シ此證人訊問ニ付テハ訴訟法ニ定ムル期限及ヒ忌避ノ規則ヲ適用セス(佛第十六條伊第二十三條第一項)

第四百二十一條 證人訊問ヲ命スル判決ノ宣告アリタルキハ檢事ハ直ニ其判決書ノ謄本ヲ司法大臣ニ進達シ司法大臣ハ適宜ニ其判決ヲ公示ス可シ(佛第一百十八條伊第二十三條第二及ヒ第三項)

第四百二十二條 裁判所ハ失踪宣言ノ請求ヲ裁判スルニ當リ失踪ノ理由及ヒ失踪者ノ音信ヲ得ル妨礙ノ原由ヲ斟酌ス可シ(佛第一百十七條)

第四百二十三條 失踪宣言ノ判決ハ證人訊問ヲ命シタルヨリ滿一个年ノ後ニ非サレハ之ヲ宣告ス可カラス此判決ハ第四百二十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ公示ス可シ(佛第一百十九條伊第二十四條、第二十五條)

第三節 失踪宣言ノ効果

第四百二十四條 失踪宣言ノ裁判アリタル後失踪者ノ遺囑書

ハ關係人又ハ檢事ノ請求ニ依リ之ヲ開封ス可シ失踪者ノ配  
偶者其亡失又ハ最後音信ノ日ニ於ケル推測相續人其他失踪  
者ノ死去ニ發起スル權利ヲ其財産上ニ有スル者ハ相續ノ開  
始シタルカ如ク直チニ其權利ヲ行フヲ得(佛第二百十條、第  
百二十三條伊第二十六條、第三十六條)

第四百二十五條 失踪者ノ財産占有ニハ總テ相續ノ規則ヲ適  
用ス(蘭第五百三十三條)

此占有ヲ得タル者ハ第三者ニ對シ其財産ノ所有者トス(佛第  
百二十五條、第二百二十九條伊第二十八條、第三十七條)

然レモ占有者ハ財産返還ノ擔保トシテ裁判所カ相當ト認ム  
ル保證人又ハ抵保ヲ立ツ可シ若シ之ヲ立ツルヲ能ハサルモ  
ハ動産ニ付テハ裁判所ノ命スル利用法ヲ爲サ、ル可カラズ  
其保證人ノ義務又ハ抵保ハ滿十五个年ノ後當然止息ス(伊第

二十六條第四項第三十六條佛第二百二十九條伊第二十七條)

第四百二十六條 若シ失踪者現出シ又ハ音信ヲ與フルモハ失  
踪宣言ノ効果ハ即時ニ止息ス(佛第三百三十一條伊第三十三條)

失踪者ハ其財産ヲ現狀ノ儘ニテ回復シ又占有者カ其處置行  
爲ニ因テ不當ニ利益シタルモノヲ取還スヲ得(佛第二百十  
八條、第三百三十二條伊第三十九條)

第四百二十七條 然レモ果實ニ付テハ失踪者其亡失又ハ最後  
音信ノ日ヨリ滿十五个年前ニ現出スルモハ其五分ノ一又滿十  
五个年後ニ現出スルモハ其十分ノ一ノミヲ取還スヲ得滿  
三十个年ノ後ハ果實ノ全部ヲ失フ(佛第二百二十七條伊第三十  
條、第三十一條)

第四百二十八條 失踪者ノ卑屬親ハ他ノ相續人カ財産占有ヲ  
得タルヨリ滿三十个年間其財産ノ返還ヲ請求スルヲ得

財産占有ヲ得タル相續人ヨリ最近ナル傍系ノ血族アルキ亦同シ(佛第三百三十三條伊第四十條)

右何レノ場合ニ於テモ果實ハ前條ノ規則ニ從ヒ之ヲ取還ス  
ヲ得(伊第三十三條第二項)

第四百二十九條 失踪者死去ノ確證アルキハ其相續ハ死去ノ日最近ナル相續人ノ爲メニ開始ス可シ其相續人ハ相續開始ノ日ヨリ滿三十年間相續財産ヲ請求スルヲ得

失踪者ノ財産ヲ占有スル者ハ之ヲ返還セサル可カラス但シ第四百二十七條ニ依リ獲得シタル果實ハ此限ニ在ラス(伊第四十條、第三百三十條)

第四節 失踪ノ推測及ヒ宣言ノ兩期ニ通用スル規則  
第四百三十條 生存確實ナラサル人ニ歸スル權利ヲ請求スル者ハ其人カ其權利開始ノ當時ニ生存セシヲ證明スルヲ

要ス此證明ヲ爲サル間ハ其請求ヲ受理ス可カラス(佛第三百三十五條伊第四十二條)

第四百三十一條 生存確實ナラサル人ノ爲メニ相續ノ開始スルキハ其相續ハ之ト同順位ヲ有スル者又ハ其次キノ順位ヲ有スル者ニ屬ス(佛第三百三十六條伊第四十三條)

失踪者ニ歸スヘキ財産ヲ相續スル者ハ其目錄ヲ調製シ且ツ第四百二十五條ニ從ヒ利用法ヲ爲シ若クハ其返還ノ擔保トシテ保證人又ハ抵保ヲ立テサル可カラス其保證人ノ義務又ハ抵保ハ滿十五個年ノ後ニ止息ス(伊第四十三條第二項)

第四百三十二條 前二條ノ規則ハ失踪者又ハ其相續人及ヒ承權人ニ屬スル相續ノ訟求其他ノ權利ヲ害スルヲ無シ此等ノ權利ハ普通ノ時効ニ依ルニ非サレハ消滅セス(佛第三百三十七條伊第四十四條)

第四百三十三條 失踪者若クハ其相續人及ヒ承權人其權利ヲ行ハサル間ハ相續ヲ爲シタル者其善意ニテ收養シタル果實ヲ保有ス(佛第三百三十八條伊第四十五條)

附錄 不在者ニ關スル規則

第四百三十四條 生存確實ナル者住所又ハ居所ヲ去リ其財産ヲ管理スル者アラサルキ若クハ裁判所失踪ヲ認定セスト雖モ本人不在ノ爲メ其財産棄置カル、キ若クハ失踪者失踪ノ推測中又ハ宣言後ニ其生存分明ト爲リタルキハ裁判所ハ關係人推測相續人又ハ檢事ノ請求ニ依リ必要ノ保存處分ヲ命スルヲ得(佛第三百三十一條伊第三十三條)

第四百三十五條 帝國ニ住所又ハ居所ヲ有スル外國人失踪シ其財産ヲ棄置キタル場合ニモ亦前條ヲ適用スルヲ得

第十五章 身分證書

第一節 總則

第四百三十六條 身分證書ハ各個人ノ身分ニ關スル事件ヲ記載スルモノニシテ其簿冊ハ身分取扱人之ヲ掌ル

身分取扱人ハ管轄市町村内ニ於テ其職ヲ行フ

第四百三十七條 身分證書ノ簿冊ハ一箇又ハ數箇ヲ設備シ出生婚姻縁組及ヒ死去ノ證書ニ付テハ正本二冊ヲ調製シ其他種々ノ證書ニ付テハ正本一冊ヲ調製ス可シ(佛第四十條蘭第十四條)

第四百三十八條 身分證書ニハ之ヲ作ル年月日時ト其證書ニ記載ス可キ人ノ氏名、年齢、族稱、職業、住所及ヒ居所トヲ記載ス可シ(佛第三十四條)

第四百三十九條 身分證書ニハ法律ノ命シタルモノ、外何事タリトモ附記スルヲ得ス(佛第三十五條)

手二冊一冊ト  
二冊分トモ  
一本分トモ  
二冊分トモ  
一本分トモ

月  
日

第四百四十條 身分證書ニ記載ス可キ事件ノ届出人ハ證人ヲ同伴シ身分取扱人ノ面前ニ於テ口頭又ハ書面ヲ以テ申述ス可シ(伊第三百五十一條)

其申述ハ失踪死去其他特別ニ規定スルモノヲ除クノ外本人之ヲ爲スヘシ若シ家族ナルキハ戸主若クハ其後見人ヲ同伴シ又ハ其申述書ヲ添ヘテ之ヲ爲ス可シ但シ止ムヲ得サル場合ハ此限ニ在ラス

第四百四十一條 本人躬ラ出席スルキ及ハサル場合ニ於テハ公正ニシテ特別ニ委任狀ヲ以テ任シタル代理人ヲ差出スヲ得(佛第三十六條)

第四百四十二條 證人及ヒ代理人ハ親族ト否トニ拘ラス日本人ニシテ成年ノ男子タル可シ(佛第三十七條)

第四百四十三條 身分取扱人ハ届出人ノ申述ヲ受ケ證人ニ面

前ニ於テ直ニ其事件ヲ簿冊ニ記載シ之ヲ出席人ニ讀ミ聞カセ共ニ署名捺印ス可シ若シ出席人其氏名ヲ手署スルヲ能ハサルキハ身分取扱人代署シテ捺印セシメ且ツ其旨ヲ附記ス可シ(佛第三十八條第三十九條)

其證書ニハ之ヲ讀ミ聞カセタルヲ記載ス可シ

第四百四十四條 身分取扱人ハ身分證書ノ記載ニ從ヒ簿冊毎トニ氏ノイロハ順ヲ以テ氏名種目番號ヲ摘記シタル見出目錄ヲ作り添ヘ置ク可シ

第四百四十五條 身分取扱役所ニハ身分證書ノ外別ニ戸籍ヲ設備シ身分證書ニ據リ各戸ヲ區別シ戸主家族ヲ編録シ其續柄ヲ簡明ニ記載ス可シ但シ其編録ノ方法ハ特別法ノ定ムル所ニ從フ

第四百四十六條 身分證書ノ簿冊ハ公用罫紙ヲ以テ調製シ其

記載ヲ爲ス前ニ地方裁判所長若クハ其代理判事之ヲ檢閲シ  
其紙數ヲ表紙ノ裏面ニ掲記シ之ニ官氏名ヲ署シ官印ヲ捺シ  
初葉ト末葉トニ記號ヲ附シ且ツ每葉ノ綴目ニ契印ヲ捺ス可  
シ(佛第四十一條)

第四百四十七條 身分證書ハ其簿册上日次ヲ逐ヒ空行ナク連  
續シテ記載ス可シ(佛第四十二條)

欄外ノ追記ハ證書ノ本文ト同シク出席人及ヒ身分取扱人共  
ニ之ヲ承認シテ署名捺印ス可シ  
身分證書ヲ作ルノ際錯誤脱漏ヲ發見シタルキハ其所ニ誤脱  
ヲ記入シタル上其字數ヲ欄外ニ記載シ身分取扱人出席人ト  
共ニ之ニ捺印ス可シ但シ其消スヘキ文字ハ之ヲ線抹シ尙ホ  
讀得ヘキヲ要ス

第四百四十八條 身分證書ニ記載スル文字ハ明瞭ニシテ讀ミ

易キヲ要ス又年月日時及ヒ年齢ニ係ル數字ハ一二三六八  
十ノ字ニ限り必ス壹貳參陸捌拾ノ字ヲ用フ可シ(伊第三百五  
十八條佛第四十二條)

第四百四十九條 本人住所外ノ地ノ身分取扱人身分證書ヲ作  
リタルキハ十日内ニ其謄本ヲ本人住所ノ身分取扱人ニ送付  
シ其送付ヲ受ケタル身分取扱人ハ直チニ之ヲ簿册ニ記載ス  
可シ

身分取扱人欄外追記ヲ爲ス可キ場合ニ於テ其役所ニ原證書  
アラサルキハ其原證書ノ存スル所ノ身分取扱人ニ其追記ノ  
事ヲ通知ス可シ

第四百五十條 身分取扱人ハ毎年十二月末日ニ於テ最終ノ證  
書ノ後ニ閉結ノ旨ヲ記シ署名捺印シ正本二册ノ内一册ハ其  
役所ニ保藏シ一册ハ翌年一月中ニ地方裁判所ノ檢事局ニ差



出ス可シ但シ正本一冊ノミノ簿冊ハ其役所ニ保藏ス可シ(佛第四十三條)

身分證書ニ添へ置ク可キ申述書及ヒ其他ノ書類ハ身分取扱人其都度出席人ト共ニ署名捺印シ其書類ノ數ヲ本證書ニ附記シ之ヲ整頓シテ檢事局ニ差出ス可キ簿冊ニ附添ス可シ(佛第四十四條)

第四百五十一條 地方裁判所ノ檢事ハ身分證書ノ簿冊ノ設備ヲ監督シ常ニ其整頓ニ注意シ其領収シタル簿冊并ニ附添書類ヲ検査シ書記ノ立會ニテ其結果ヲ記シ之ニ認印シテ其裁判所ノ書記局ニ保藏セシム可シ(佛第五十三條伊第三百六十五條白第六十二條)  
檢事若シ身分證書ニ付犯則アルヲ發見シタルハ其裁判所ニ相當ノ處分ヲ請求ス可シ

第四百五十二條 既ニ記載シタル身分證書ニ追記ヲ爲ス可キ片ハ當事者ノ請求ニ依リ身分取扱人ハ其證書ノ欄外ニ之ヲ記入ス可シ但シ地方裁判所ノ書記局ニ保藏スル證書ニ其追記ヲ爲スニ付テハ身分取扱人ハ三日内ニ其旨ヲ檢事ニ報告シ檢事ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ記入セシメ且ツ其記入ノ彼此同一ナル可キヲ檢視ス(佛第四十九條)

第四百五十三條 身分證書ノ簿冊ハ何人ニ限ラス身分取扱役所ニ於テ展閱ヲ乞ヒ且ツ費用ヲ出シテ其謄本ヲ身分取扱人ニ求ムルヲ得(佛第四十五條)  
身分取扱人ハ各個人ノ請求ニ應シテ其證書ノ搜索ヲ爲サ、ル可カラス(伊第三百六十二條)  
其謄本ハ原本ト同一ニ謄寫シ之ニ相違ナキ旨ヲ附記シ署名捺印シテ授付ス可シ

第四百五十四條 有効ノ身分證書并ニ其正式ノ謄本ハ身分取  
扱人ノ自認スル事實ノ真正ナルヲ證ス但シ偽造ノ訴ヲ妨  
ケス(佛第四十五條伊第三百六十三條)

出席人ノ申述ハ反對ノ證據アルマテ真正ナルモノト看做ス  
(伊第三百六十三條二項)

法律ノ命セサル記載及ヒ資格ナキ者ノ申述ハ無効トス

第四百五十五條 身分證書ノ記載上ノ違式若クハ誤脱ハ其證  
書ヲ無効ト爲サス但シ左ノ場合ハ此限ニ在ラス

一 身分取扱人之ヲ作ラサルキ

二 簿冊ニ之ヲ記載セサルキ

三 身分取扱人之ニ署名捺印セサルキ

第四百五十六條 身分證書ノ簿冊ノ設備ナク若クハ中絶シタ  
ルキ又ハ其全部若クハ一部ノ毀損亡滅シタルキ又ハ其記載

上ニ甚シキ違式若クハ誤脱アリテ信用ヲ置ク可カラサルキ  
又ハ身分取扱人ノ詐欺若クハ過失ニ因リ身分證書ヲ作ラサ  
リシキハ戸籍、證人、若クハ私ノ書類ヲ以テ其身分上ノ事件ヲ  
證明スルヲ得但シ詐欺ヲ以テ其事由ヲ釀成シタル者ハ此  
限ニ在ラス(佛第四十六條伊第三百六十四條)

第四百五十七條 日本人外國ニ於テ其國ノ法式ニ從ヒ作ラシ  
メタル身分證書ハ有効トス(佛第四十七條)

此場合ニ於テハ本人其證書ノ謄本ヲ三個月内ニ其國駐在ノ  
帝國公使若クハ領事ニ差出ス可シ

若シ其國ニ帝國公使若クハ領事ノ駐在ナキキハ本人歸國ノ  
後三個月内ニ其證書ノ謄本ヲ住所ノ身分取扱人ニ差出シ其  
記載ヲ求ム可シ

第四百五十八條 外國在留ノ日本人ハ帝國公使館又ハ領事廳

ニ於テ帝國ノ法式ニ從ヒ身分證書ヲ作ラシムルヲ得(佛第四十八條)

公使館又ハ領事廳ニ於テ作り若クハ本人ヨリ受取リタル身分證書ノ謄本ハ三個月内ニ外務大臣ニ送致シ外務大臣ハ之ヲ本人住所ノ身分取扱人ニ送付ス可シ但シ本人ノ住所不詳ナルキハ之ヲ司法省ニ藏置ス

第四百五十九條 前二條ニ掲クル身分證書ノ謄本ヲ受取リタル身分取扱人ハ直チニ之ヲ簿冊ニ記載ス可シ

第二節 出生證書

第四百六十條 出生アリタルキハ届出人ハ分娩ヨリ十日内ニ證人一名ヲ同伴シ其所ノ身分取扱人ニ申述ヲ爲ス可シ(佛第五十五條伊第三百七十一條)

身分取扱人ハ必要ト思料スルキハ醫師ヲ派遣シ又ハ躬ヲ其

子ヲ臨視スルヲ得

第四百六十一條 出生ノ後十日ヲ過キタルキハ地方裁判所ノ命令アルニ非サレハ其證書ヲ作ル可カラズ(伊第三百七十二條)

第四百六十二條 出生ハ父ヨリ申述ス可シ若シ父ノ在ラサルキハ同居ノ親族若クハ分娩ノ時臨席シタル醫師、産婆、其他ノ人ヨリ申述ス可シ若シ常ニ住居セサル他ノ家ニ於テ分娩シタルキハ父ニ次キ其家主若クハ管理人ヨリ申述ス可シ(佛第五十六條)

母モ亦其申述ヲ爲スヲ得(伊第三百七十二條)

右申述ヲ受ケタル身分取扱人ハ直チニ其證書ヲ作ル可シ

第四百六十三條 出生證書ニハ出生ノ年、月、日、時、場所、子ノ男女、其子ニ命シタル名、及ヒ其父母、申述人、證人、ヲ記載ス可シ(佛第

五十七條伊第三百七十四條

刑

若シ雙兒以上ノ分娩ニ係ルキハ其出生ノ前後ヲ記ス可シ

第四百六十四條 庶出子ニ付テハ父之ヲ認知シタル場合ニ非

サレハ届出人其父ノ氏名ヲ申述スト雖モ之ヲ出生證書ニ記

載ス可カラス(伊第三百七十六條)

第四百六十五條 病院監獄其他公立院舎ニ於テ出生アリタル

キハ二十四時内ニ院長典獄又ハ管理人ヨリ其所ノ身分取扱

人ニ報告ス可シ

身分取扱人ハ其報告ニ據リ直チニ出生證書ヲ作ル可シ

第四百六十六條 棄兒ヲ發見シタル者ハ其兒并ニ附屬シタル

衣服其他ノ物品ヲ其所ノ身分取扱人ニ差出シ且ツ發見ノ場

所日時其他ノ景況ヲ申述ス可シ(佛第五十八條)

身分取扱人ハ調書ヲ作り其兒ヲ觀閱シタル年齢其男女其兒

ニ命シタル氏名及ヒ其兒ヲ引渡ス所ノ育兒院若クハ之ヲ引

受ケ養育スル者ノ氏名年齢族稱職業住所又ハ居所ヲ記入シ

其調書ヲ身分證書ノ簿冊ニ記載ス可シ

第四百六十七條 出生證書ヲ作ラサル前ニ其生レタル子又ハ

發見シタル棄兒死去シタルキハ生レタル子ニ付テハ醫師ノ

診斷書又棄兒ニ付テハ保安官ノ檢視調書ヲ身分取扱人ニ差

出シ申述ヲ爲ス可シ身分取扱人ハ死去證書ノ簿冊ニ其申述

ノミヲ記載ス可シ(伊第三百七十四條末項)

第四百六十八條 航海中ニ出生アリタルキハ官ノ艦船ニ在テ

ハ其艦船ノ事務官其他ノ船舶ニ在テハ船長二十四時内ニ其

父ト乗組人中ヨリ撰ミタル證人一名トノ面前ニ於テ證書ヲ

作ル可シ(佛第五十九條)

其證書ハ乗組人名簿ノ末ニ記載ス可シ